

9.9 植物

9.9.1 調査結果の概要

(1) 調査内容

工事の実施、施設の存在に伴う植物への影響を予測及び評価するために、表9.9-1に示す項目について調査した。

表 9.9-1 植物の調査項目

調査項目	
植 物	<ul style="list-style-type: none">・ 植物相の状況（生育種及び植物相の特徴）・ 植生の状況・ 保全すべき種及び保全すべき群落の状況・ 保全すべき種及び保全すべき群落の生育環境・ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

(2) 調査方法

1) 既存資料調査

既存資料調査では、表 9.9-2 に示す文献を収集、整理した。

表 9.9-2 既存文献調査の収集資料

No.	文献名等	整理内容
1	河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)	綾瀬川(主に草加市)における最新の分布情報を整理。
2	埼玉県レッドデータブック2011植物編(平成23年、埼玉県)	対象事業実施区域が位置する「加須・中川低地」及び近接する「大宮台地」における分布情報を整理。
3	1998年版埼玉県植物誌(平成10年、埼玉県教育委員会)	川口市、草加市及び越谷市における分布情報を整理。
4	川口市植生調査報告書(平成4年、川口市)	戸塚地区における分布情報を整理。
5	戸塚の緑のゆくえ(平成13年、川口市立戸塚図書館)	綾瀬川(佐藤橋付近)における分布情報を整理。
6	地元環境団体資料等(川口植物の会、綾瀬川を愛する会、自然探検コロボックルくらぶ等)	綾瀬の森(通称)等の対象事業実施区域近傍の分布情報を整理。

2) 現地調査

ア 植物相の状況

調査範囲内を踏査し、出現するシダ植物以上の高等植物を対象として植物相を特徴付ける主要な生育種の有無を目視観察により調査し記録した。

保全すべき種が確認された場合、生育個体数、生育環境等を記録した。

イ 植生の状況

主要な植物群落に調査地点を設定し、ブラウーンブランケ法の全推定法による群落コドラート調査を行った。

現地踏査による植生の判読と航空写真判読による植生分布の確認を行った。

保全すべき群落が確認された場合、生育環境等を記録した。

ウ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

緑被率は植生調査結果及び空中写真判読等により緑被の区分ごとの分布を把握し、緑視率は写真撮影を行い、画面上の緑の割合を計測した。

(3) 調査地域・調査地点

1) 既存文献調査

調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

2) 現地調査

ア 植物相の状況

調査地域は、前掲「9.8 動物」と同様に、図 9.9-1 に示す調査範囲とした。

調査範囲は、対象事業実施区域及び周辺 200m の範囲を基本とし、地元の環境活動が盛んな「綾瀬の森」を含めた範囲とした。

調査地点は調査範囲全域とした。

イ 植生の状況

調査地域は、前掲「ア 植物相の状況」と同様とした。

調査地点は調査範囲全域とし、コドラートは植生区分ごとに 1～2 箇所程度設置した。

ウ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

調査地域は、前掲「ア 植物相の状況」と同様とした。

緑視率の調査地点は、対象事業実施区域周辺の路上の代表地点とし、表 9.9-3 及び図 9.9-1 に示すとおりとした。

表 9.9-3 緑視率の調査地点

No.	調査地点
1	戸塚環境センター南
2	北辰病院駐車場付近

(4) 調査期間等

1) 既存資料調査

既存資料は、入手可能な最新年の資料を入手した。

2) 現地調査

植物の調査期間等は、表 9.9-4 に示すとおりとした。

表 9.9-4 植物の調査期間等

調査項目	調査期間
植物相の状況	初夏季（平成 30 年 6 月 18 日～19 日） 夏 季（平成 30 年 8 月 23 日～24 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 9 日～10 日） 春 季（令和元年 5 月 9 日～10 日）
植生の状況	夏 季（平成 30 年 7 月 9 日～10 日）
緑の量	夏 季（平成 30 年 7 月 9 日～10 日、8 月 18 日）

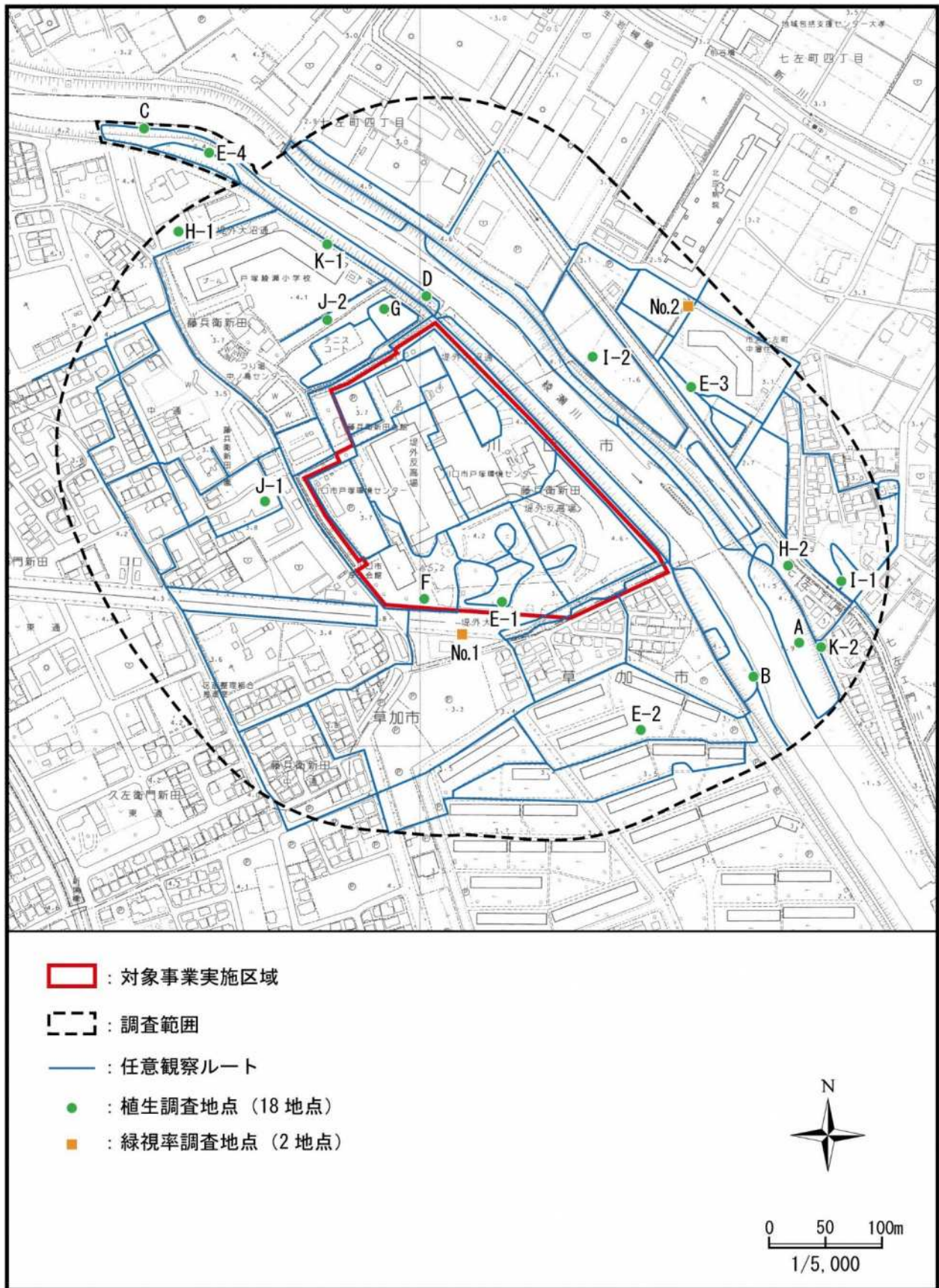


図 9.9-1 植物の調査範囲及び調査地点

(5) 保全すべき種の選定

保全すべき種の選定基準は、表9.9-5に示すとおりとした。

表 9.9-5 保全すべき種の選定基準

No.	文献及び法令名	区分	略号
①	文化財保護法 (昭和 25 年、法律第 214 号)	特別天然記念物 天然記念物	特天 天
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の 保存に関する法律 (平成 4 年、法律第 75 号) (以下、「種の保存法」という。)	国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 特定国内希少野生動植物種	国内 国際 特定
③	埼玉県文化財保護条例 (昭和 30 年、埼 玉県条例第 46 号) (以下、「埼玉県文化 財」という。)	県指定天然記念物	県天
④	埼玉県希少野生動植物の種の保存に関 する条例 (平成 12 年、埼玉県条例第 11 号) (以下、「埼玉県保護条例」という。)	県内希少野生動植物種	希少
⑤	環境省レッドリスト 2019 (平成 31 年、 環境省) (以下、「環境省 R L 2019」と いう。)	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群	EX EW CR+EN CR EN VU NT DD LP
⑥	埼玉県レッドデータブック 2011 植物 編 (平成 24 年、埼玉県環境部自然環境 課) (以下、埼玉県 R D B 2011)	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群	EX EW CR EN VU NT DD LP

(6) 調査結果

1) 既存資料調査

「川口市植生調査報告書」（平成4年、川口市）によると、戸塚地区において、スギナ、ハンノキ、ナズナ、ナガボノシロワレモコウ、ヒガンバナ等が確認されている。

また、保全すべき種として、161種が確認されている。保全すべき種の一覧は前掲「第3章対象事業実施区域及びその周囲の概況 3.2 自然的状況 (5)動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況 イ 植物」に示すとおりである。

2) 現地調査

ア 植物相の状況

(ア) 植物相の状況（生育種及び植物相の特徴）

現地調査の結果、植物は表9.9-6(1)～(11)に示す116科538種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

市街地では、植栽地にマテバシイ、ウバメガシ、ドウダンツツジ等が確認され、道端等にセイヨウタンポポやオオキンケイギク等が確認された。綾瀬川の河川敷においては、オオバコ、ススキ、ヨシ等が確認され、水田環境では、コナギやマコモ等の水生植物が確認された。

表 9.9-6(1) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏	夏	秋	春
1	シダ植物	イワヒバ	カタヒバ				●
2		トクサ	スギナ	●	●	●	●
3			イヌドクサ	●	●		
4		ハナヤスリ	フユノハナワラビ	●		●	●
5			ハマハナヤスリ			●	
6			コハナヤスリ			●	
7		フサシダ	カニクサ	●		●	●
8		ミズワラビ	ミズワラビ			●	
9		イノモトソウ	イノモトソウ	●	●	●	●
10		オシダ	ナガバヤブソテツ	●			
11			ヤブソテツ	●	●	●	●
12		メシダ	イヌワラビ	●	●	●	●
13			ヘビノネゴザ				●
14			シケシダ	●			
15	裸子植物	ソテツ	ソテツ	●	●	●	●
16		イチョウ	イチョウ	●	●	●	●
17		マツ	ヒマラヤスギ	●	●	●	●
18			アカマツ	●		●	●
19			ヒメコマツ			●	●
20			クロマツ		●	●	●
21		スギ	コウヤマキ	●	●	●	●
22		ヒノキ	カマクラヒバ	●		●	●
23			カイヅカイブキ	●	●	●	●
24			ハイビャクシン			●	●
25			メタセコイア	●	●	●	●
26		マキ	イヌマキ	●	●		
27		イチイ	イチイ				●
28			カヤ	●	●	●	●
29	離弁花類	ヤマモモ	ヤマモモ	●	●	●	●
30		クルミ	オニグルミ	●	●	●	●
31			サワグルミ	●	●	●	●
32		ヤナギ	シダレヤナギ	●	●		
33			アカメヤナギ	●	●	●	●
34			カワヤナギ			●	●
35			ネコヤナギ			●	
36			コゴメヤナギ	●	●	●	
37			タチヤナギ	●	●	●	●
38		カバノキ	ハンノキ	●	●	●	●
39			アカシデ	●	●		●
40			イヌシデ	●	●	●	●
41		ブナ	スダジイ	●	●	●	●
42			マテバシイ	●	●	●	●
43			クヌギ	●	●	●	●
44			アラカン	●	●	●	●
45		シラカン	●	●	●	●	

表 9.9-6(2) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏	夏	秋	春
46	離弁花類	ブナ	ウバメガシ	●	●	●	●
47			コナラ	●	●	●	●
48		ニレ	ムクノキ	●	●	●	●
49			エノキ	●	●	●	●
50			アキニレ			●	●
51			ケヤキ	●	●	●	●
52		クワ	ヒメコウゾ	●			
53			カジノキ	●			
54			クワクサ	●	●	●	
55			カナムグラ	●	●	●	●
56			マグワ	●	●	●	●
57			ヤマグワ			●	●
58		イラクサ	クサマオ		●		
59			ミズ				●
60		タデ	ミズヒキ	●	●	●	●
61			ヒメツルソバ	●	●	●	●
62			ヤナギタデ		●	●	
63			シロバナサクラタデ			●	
64			オオイヌタデ	●	●	●	
65			イヌタデ		●	●	
66			サデクサ			●	
67			ヤノネグサ			●	
68			イシミカワ	●	●	●	●
69			ハナタデ			●	
70			ママコノシリヌグイ		●		
71			ミゾソバ	●	●	●	●
72			ミチヤナギ	●	●	●	●
73			イタドリ	●	●	●	●
74			オオイタドリ				●
75			スイバ	●	●	●	●
76			アレチギンギシ	●	●	●	●
77			ナガバギンギシ	●	●	●	●
78			ギンギシ				●
79			コギンギシ	●			●
80		エゾノギンギシ	●	●			
81		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	●	●	●	●
82		オシロイバナ	オシロイバナ	●	●	●	
83		ザクロソウ	ザクロソウ	●	●	●	
84		スベリヒユ	スベリヒユ	●	●	●	
85			ハゼラン	●		●	●
86		ナデシコ	ノミノツヅリ	●			●
87			オランダミミナグサ	●	●	●	●
88			ツメクサ	●			●
89			ムシトリナデシコ	●			
90			ウシハコベ	●	●	●	●
91			コハコベ	●	●		●
92	ミドリハコベ		●	●	●	●	
93	アカザ	シロザ	●	●	●	●	
94		コアカザ	●	●		●	
95		ゴウシュウアリタソウ	●		●	●	
96	ヒユ	ヒカゲイノコズチ	●	●	●		

表 9.9-6(3) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏季	夏季	秋季	春季
97	離弁花類	ヒユ	ヒナタイノコズチ	●	●	●	●
98			ツルノゲイトウ			●	
99			イヌビユ	●	●		
100			ホソアオゲイトウ		●	●	
101		モクレン	コブシ	●	●	●	●
102		クスノキ	クスノキ	●	●	●	●
103			シロダモ	●	●	●	●
104		ロウバイ	ロウバイ			●	
105		スズカケノキ	アメリカスズカケノキ	●	●	●	●
106		キンボウゲ	センニンソウ				●
107			ケキツネノボタン	●	●	●	●
108			タガラシ	●			●
109			キツネノボタン		●		
110		メギ	ヒイラギナンテン	●	●	●	●
111			ナンテン	●	●	●	●
112		アケビ	ゴヨウアケビ				●
113			ミツバアケビ			●	●
114		ツヅラフジ	アオツヅラフジ		●	●	●
115		マツモ	マツモ				●
116		ドクダミ	ドクダミ	●	●	●	●
117			ハンゲシヨウ	●			
118		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		●	●	●
119		ツバキ	ヤブツバキ	●	●	●	●
120			サザンカ	●	●	●	●
121			サカキ	●		●	●
122			ヒサカキ	●		●	●
123			モッコク	●	●	●	●
124			ケシ	タケニグサ	●	●	●
125		ナガミヒナゲン		●	●		●
126		ヒナゲン					●
127		アブラナ	セイヨウカラシナ	●	●		●
128			ナズナ	●	●	●	●
129			タネツケバナ			●	●
130			カラクサナズナ				●
131			マメグンバイナズナ		●	●	●
132			コイヌガラシ				●
133			イヌガラシ	●	●	●	●
134			スカシタゴボウ	●	●	●	●
135			カキネガラシ				●
136			ベンケイソウ	コモチマンネングサ	●	●	
137		オノマンネングサ				●	
138		ツルマンネングサ		●	●	●	●
139		ヨコハママンネングサ		●		●	●
140		ユキノシタ	ウツギ			●	●
141			セイヨウアジサイ	●		●	●
142			タコノアシ	●	●	●	
143			ユキノシタ			●	
144	トベラ	トベラ			●	●	
145	バラ	キンミズヒキ			●		
146		ウメ	●	●	●	●	
147		イトザクラ	●	●	●	●	

表 9.9-6(4) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期						
				初夏	夏	秋	春			
148	離弁花類	バラ	ジュウガツザクラ				●			
149			ソメイヨシノ	●	●	●	●			
150			ヘビイチゴ	●	●	●	●			
151			ヤブヘビイチゴ	●	●		●			
152			ビワ	●	●	●	●			
153			ヤマブキ	●	●	●	●			
154			セイヨウリンゴ	●		●	●			
155			レッドロビン	●		●	●			
156			コバナキジムシロ	●		●	●			
157			オヘビイチゴ	●	●	●	●			
158			ヤマザクラ		●	●	●			
159			スモモ	●		●	●			
160			カリン			●	●			
161			タチバナモドキ	●		●				
162			トキワサンザシ			●	●			
163			シャリンバイ	●	●	●	●			
164			ノイバラ	●	●	●	●			
165			セイヨウバラ	●		●	●			
166			クサイチゴ	●	●	●	●			
167			ナワシロイチゴ	●	●	●	●			
168			エビガライチゴ	●						
169			ナガボノシロワレモコウ			●	●			
170			ナガボノアカワレモコウ			●	●			
-					ワレモコウ属の一種	●	●	●		
171					コデマリ		●	●	●	
172					ユキヤナギ	●	●	●	●	
173			マメ		クサネム		●	●		
174					ネムノキ	●	●	●	●	
175					イタチハギ			●		
176					ヤブマメ	●	●			
177					アレチヌスビトハギ	●	●	●	●	
178					ヌスビトハギ			●		
179					ツルマメ	●	●	●		
180					マルバヤハズソウ	●	●	●		
181					ヤハズソウ	●	●	●	●	
182					メドハギ	●	●	●		
183					コメツブウマゴヤシ					●
184					シナガワハギ			●	●	
185					クズ	●	●	●	●	
186					ハリエンジュ				●	
187					クスダマツメクサ	●				
188					コメツブツメクサ	●			●	●
189					ムラサキツメクサ	●	●	●	●	
190					シロツメクサ	●	●	●	●	
191					ヤハズエンドウ	●		●	●	
192					スズメノエンドウ	●		●	●	
193					カスマグサ	●			●	
194					フジ	●	●	●		
195					カタバミ		イモカタバミ	●	●	●
196	カタバミ	●					●	●	●	
197	ウスアカカタバミ	●		●			●			

表 9.9-6(5) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期				
				初夏	夏	秋	春	
198	離弁花類	カタバミ	アカカタバミ	●	●	●	●	
199			ムラサキカタバミ	●			●	
200			オッタチカタバミ	●	●	●	●	
201		フクロソウ	アメリカフウロ	●		●	●	
202		トウダイグサ	エノキグサ	●	●	●	●	
203			アレチニシキソウ	●				
204			ハイニシキソウ			●	●	
205			ショウジョウソウ	●		●		
206			トウダイグサ				●	
207			オオニシキソウ	●	●	●		
208			タカトウダイ				●	
209			コニシキソウ	●	●	●		
210			アカメガシラ	●	●	●	●	
211			ヒメミカンソウ	●				
212			ナガエコミカンソウ			●		
213			ナンキンハゼ	●	●	●	●	
214			ユズリハ	ユズリハ	●	●	●	●
215			ミカン	ユズ	●	●	●	●
216				ナツダイダイ			●	●
217		コクサギ		●	●	●	●	
218		カラスザンショウ		●	●	●	●	
219		センダン	センダン		●			
220		ウルシ	ヌルデ	●	●		●	
221		カエデ	イロハモミジ	●	●	●	●	
222		ムクロジ	フウセンカズラ		●			
223			ムクロジ	●	●	●	●	
224		トチノキ	トチノキ	●	●	●	●	
225		モチノキ	イヌツゲ	●	●	●	●	
226			モチノキ	●	●	●	●	
227			クロガネモチ			●	●	
228	ウメモドキ				●			
229	ニシキギ	ツルウメモドキ	●	●				
230		ニシキギ	●	●	●	●		
231		マサキ				●		
232		カントウマユミ			●			
233	ブドウ	ノブドウ	●	●	●	●		
234		キレバノブドウ	●		●	●		
235		ヤブガラシ	●	●	●	●		
236		ツタ	●	●	●			
237		エビヅル	●	●	●	●		
238	アオイ	モミジアオイ			●			
239		ゼニアオイ			●	●		
240	グミ	ツクバグミ	●	●		●		
241		アキグミ		●				
242	スマレ	タチツボスマレ	●	●		●		
243		スマレ	●	●	●	●		
244		アメリカスマレサイシン			●			
245		ツボスマレ				●		
246	シュウカイドウ	シキザキベゴニア	●					
247	ウリ	ゴキヅル		●	●			
248		スズメウリ	●					

表 9.9-6(6) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏	夏	秋	春
249	離弁花類	ウリ	アレチウリ	●	●	●	●
250			カラスウリ	●	●	●	●
251			キカラスウリ	●		●	
252		ミソハギ	サルスベリ	●	●	●	●
253		アカバナ	ヤマモモソウ			●	●
254			チョウジタデ		●	●	
255			ウスゲチョウジタデ			●	
256			メマツヨイグサ			●	●
257			コマツヨイグサ	●	●	●	●
258			ユウゲショウ	●	●	●	●
259			ヒルザキツキミノウ		●	●	●
260		アリノトウグサ	ホザキノフサモ				●
261		ミズキ	アオキ	●	●	●	●
262			フイリアオキ	●	●	●	●
263			アメリカヤマボウシ	●	●	●	●
264		ウコギ	タラノキ	●			●
265			カクレミノ	●	●	●	●
266			ヤツデ	●	●	●	●
267			セイヨウキツタ	●	●	●	●
268			キツタ			●	●
269		セリ	ノチドメ	●	●	●	●
270			オオチドメ		●		
271			チドメグサ			●	●
272			セリ	●	●		●
273			ヤブニンジン				●
274			ヤブジラミ	●			●
275			オヤブジラミ				●
276	合弁花類		リョウブ	リョウブ			●
277		ツツジ	ドウダンツツジ	●	●	●	●
278			アセビ	●	●	●	●
279			サツキ	●	●	●	●
280			オオムラサキ	●	●	●	●
281			ヒラドツツジ	●	●	●	●
282			ヤブコウジ	マンリョウ			●
283		サクラソウ	ヌマトラノオ			●	●
284			コナスビ	●		●	
285		カキノキ	カキノキ	●	●	●	●
286		エゴノキ	エゴノキ		●		
287		モクセイ	シナレンギョウ	●		●	●
288			シマトネリコ				●
289			トネリコ				●
290			ヤチダモ	●	●	●	●
291			ネズミモチ		●		
292			トウネズミモチ	●	●	●	●
293			キンモクセイ	●	●	●	●
294			ヒイラギモクセイ				●
295			ヒイラギ	●	●	●	●
296		キョウチクトウ	キョウチクトウ	●	●	●	●
297			ツルニチニチソウ	●		●	●
298		ガガイモ	ガガイモ	●	●	●	●
299		アカネ	ヒメヨツバムグラ	●	●	●	●

表 9.9-6(7) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期				
				初夏	夏	秋	春	
300	合弁花類	アカネ	ヤエムグラ	●		●	●	
301			ヤイトバナ	●	●	●	●	
302		ヒルガオ	コヒルガオ	●	●	●		
303			ヒルガオ	●	●	●	●	
304			マルバルコウ		●	●		
305			マメアサガオ		●	●		
306			ベニバナマメアサガオ			●		
307			アサガオ			●		
308			マルバアサガオ			●		
309			ホシアサガオ			●		
310			モミジルコウ			●		
311			ムラサキ	ハナイバナ	●		●	
312				ヒレハリソウ		●	●	
313		キュウリグサ		●		●	●	
314		クマツヅラ	コムラサキ	●			●	
315			ムラサキシキブ	●	●			
316			クサギ	●	●	●	●	
317			ヒメイワダレソウ				●	
318			アレチハナガサ	●			●	
319			ダキバアレチハナガサ			●		
320		シソ	トウバナ	●	●		●	
321			シロバナカキドオシ				●	
322			カキドオシ	●	●	●	●	
323			ホトケノザ	●		●	●	
324			ヒメオドリコソウ			●	●	
325			シロネ	●	●	●		
326			メグサハッカ	●	●	●	●	
327			ヒメジソ			●		
328			ハナハッカ			●		
329			チリメンジソ	●	●	●		
330			ハナトラノオ			●		
331		ナス	クコ	●		●	●	
332			ホオズキ	●				
333			ワルナスビ	●	●	●		
334			ヒヨドリジョウゴ	●		●	●	
335	イヌホオズキ			●	●			
336	アメリカイヌホオズキ			●	●			
337	ゴマノハグサ		ツタバウンラン				●	
338		ウリクサ		●	●			
339		アメリカアゼナ		●	●			
340		タケトアゼナ			●			
341		アゼナ			●			
342		サギゴケ		●		●		
343		トキワハゼ	●	●	●	●		
344		オオカワヂシャ	●			●		
345		タチイヌノフグリ	●	●		●		
346		ムシクサ				●		
347		オオイヌノフグリ	●		●	●		
348	カワヂシャ	●			●			
349	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ			●			
350	キツネノマゴ	キツネノマゴ	●	●	●			

表 9.9-6(8) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏	夏	秋	春
351	合弁花類	ハマウツボ	ヤセウツボ	●			●
352		オオバコ	オオバコ	●	●	●	●
353			ヘラオオバコ	●	●	●	●
354			タチオオバコ			●	●
355		スイカズラ	ハナヅノツクバネウツギ	●		●	●
356			スイカズラ	●	●	●	●
357			サンゴジュ	●		●	●
358		オミナエシ	ノヂシャ				●
359		キキョウ	ホタルブクロ	●			●
360			キキョウソウ				●
361		キク	ブタクサ			●	
362			クワモドキ	●	●	●	●
363			ヒメヨモギ	●			
364			ヨモギ	●	●	●	●
365			カントウヨメナ	●	●	●	●
366			アメリカセンダングサ	●	●	●	●
367			コセンダングサ	●	●	●	●
368			トキンソウ	●		●	
369			イエギク	●			
370			アメリカオニアザミ	●	●	●	●
371			アレチノギク	●	●		
372			オオアレチノギク	●	●		●
373			オオキンケイギク	●		●	
374			ハルシャギク	●			
375			オオハルシャギク	●			
376			キバナコスモス			●	
377			アメリカタカサブロウ	●	●	●	
378			タカサブロウ			●	
379			ヒメムカシヨモギ		●	●	
380			ハルジオン				●
381			ハキダメギク		●	●	●
382			ウラジロチチコグサ	●	●	●	●
383			ハハコグサ	●	●	●	●
384			タチチチコグサ				●
385			チチコグサ	●		●	●
386			チチコグサモドキ	●	●		
387			ウスベニチチコグサ	●			●
388			キクイモ	●	●	●	
389			キツネアザミ				●
390			ブタナ		●		
391			オオヂシバリ	●	●	●	●
392	ニガナ					●	
393	アキノノゲシ		●	●		●	
394	トゲヂシャ					●	
395	コオニタビラコ					●	
396	ヤブタビラコ		●	●	●	●	
397	フキ		●	●	●	●	
398	ノボロギク		●		●	●	
399	セイタカアワダチソウ		●	●	●	●	
400	オオアワダチソウ			●			
401	オニノゲシ	●	●	●	●		

表 9.9-6(9) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期				
				初夏	夏	秋	春	
402	合弁花類	キク	ノゲシ	●	●	●	●	
403			ヒメジョオン	●	●	●	●	
404			ヒロハホウキギク			●		
405			セイヨウタンポポ	●	●	●	●	
406			カントウタンポポ	●		●	●	
407			オオオナモミ	●	●	●		
408			オニタビラコ	●	●	●	●	
409			単子葉類	トチカガミ	オオカナダモ			
410	コカナダモ						●	
411	ヒルムシロ	イトモ					●	
412	ユリ	ムラサキクンシラン		●		●	●	
413		ノビル		●	●	●	●	
414		ニラ		●	●	●	●	
415		ヒメヤブラン				●	●	
416		ヤブラン					●	
417		ジャノヒゲ		●	●	●	●	
418		カブダチジャノヒゲ		●		●	●	
419		ナガバジャノヒゲ				●		
420		オモト		●			●	
421		オオツルボ					●	
422		ツルボ					●	
423		リュウゼツラン		キミガヨラン	●		●	●
424		ヒガンバナ		ヒガンバナ			●	●
425				タマスダレ			●	
426	ヤマノイモ	ナガイモ		●			●	
427		ヤマノイモ		●	●			
428		オニドコロ			●			
429	ミズアオイ	コナギ			●	●		
430	アヤメ	キシヨウブ		●		●		
431		ニワゼキショウ		●		●	●	
432	イグサ	ホソイ		●			●	
433		スズメノヤリ					●	
434	ツユクサ	マルバツユクサ		●		●		
435		カロライナツユクサ				●		
436		ツユクサ		●	●	●	●	
437		イボクサ		●	●	●		
438		ノハカタカラクサ					●	
439	イネ	アオカモジグサ		●	●		●	
440		カモジグサ		●			●	
441		スズメノテッポウ				●	●	
442		メリケンカルカヤ				●	●	
443		コブナグサ				●		
444		カラスムギ		●			●	
445		ミノゴメ		●			●	
446		コバンソウ		●			●	
447		ヤクナガイヌムギ					●	
448		イヌムギ		●	●			
449		スズメノチャヒキ		●	●			
450		メウマノチャヒキ					●	
451		ギョウギシバ		●	●	●	●	
452		メヒシバ		●	●	●		

表 9.9-6(10) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏	夏	秋	春
453	単子葉類	イネ	コメヒシバ			●	
454			ハマガヤ			●	
455			イヌビエ	●	●	●	
456			ケイヌビエ	●	●	●	
457			タイヌビエ			●	
458			オヒシバ	●	●	●	
459			カゼクサ		●	●	
460			ニワホコリ			●	
461			コスズメガヤ	●	●	●	
462			オニウシノケグサ		●		
463			ヒロハノウシノケグサ				●
464			ドジョウツナギ				●
465			チガヤ	●		●	●
466			チゴザサ	●	●		
467			ネズミムギ	●			●
468			ホソムギ	●			
469			ササガヤ	●	●	●	
470			アシボン			●	
471			オギ	●	●	●	●
472			ススキ	●	●	●	●
473			ケチヂミザサ	●	●		
474			ヌカキビ			●	
475			オオクサキビ			●	
476			シマスズメノヒエ	●	●	●	
477			チカラシバ			●	
478			クサヨシ	●	●	●	●
479			ヨシ	●	●	●	●
480			ツルヨシ		●		●
481			モウソウチク	●	●	●	●
482			アズマネザサ	●	●	●	●
483			ミヅイチゴツナギ				●
484			スズメノカタビラ	●	●	●	●
485			コイチゴツナギ				●
486			ナガハグサ				●
487			イチゴツナギ				●
488			オオスズメノカタビラ	●			●
489			ヒエガエリ	●			●
490			クマザサ			●	●
491			アキノエノコログサ		●	●	
492			コツブキンエノコロ			●	
493			キンエノコロ			●	
494			エノコログサ	●	●	●	
495			ムラサキエノコロ			●	
496			オカメザサ	●		●	●
497			セイバンモロコシ	●	●	●	
498			ネズミノオ			●	
499			カニツリグサ				●
500			ナギナタガヤ	●			
501			マコモ	●	●	●	●
502			シバ		●	●	
503	ヤシ	シユロ	●	●	●	●	

表 9.9-6(11) 確認種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	調査時期			
				初夏季	夏季	秋季	春季
504	単子葉類	サトイモ	ショウブ	●			
505			カラスビシャク			●	●
506		ウキクサ	アオウキクサ	●	●	●	●
507			ウキクサ	●	●	●	●
508		ガマ	ヒメガマ		●	●	●
509		カヤツリグサ	アオスゲ				●
510			アゼナルコ	●			●
511			シラスゲ				●
512			マスクサ	●			●
513			ウマスゲ	●			●
514			ヤガミスゲ	●	●		●
515			ノゲヌカスゲ				●
516			ミコシガヤ	●	●		
517			ヤブスゲ				●
518			アゼスゲ				●
519			ヤワラスゲ	●			●
520			シュロガヤツリ	●			
521			チャガヤツリ			●	
522			ヒメクグ	●	●	●	
523			タマガヤツリ		●	●	
524			ホソミキンガヤツリ		●	●	
525			メリケンガヤツリ	●		●	
526			ヒナガヤツリ		●	●	
527			コゴメガヤツリ	●	●	●	
528			カヤツリグサ			●	
529			アオガヤツリ		●		
530			ハマスゲ		●		
531			ミズガヤツリ			●	
532			マツバイ			●	
533			ヒデリコ		●	●	
534			イヌホタルイ		●	●	
535			サンカクイ		●		
536		ショウガ	ミョウガ	●			
537	ラン	シラン	●		●	●	
538		ネジバナ	●		●	●	
—	—	116 科	538 種	339 種	290 種	376 種	354 種

(イ) 保全すべき種の状況及び生育環境

現地調査の結果、保全すべき種は、コハナヤスリ、ミズワラビ、シロバナサクラタデ、コギシギシ、マツモ、コイヌガラシ、タコノアシ、ナガボノシロワレモコウ、ナガボノアカワレモコウ、ワレモコウ属の一種、ゴキヅル、ウスゲチョウジタデ、ホザキノフサモ、ヌマトラノオ、カワヂシャ、イトモ、ウマスゲの16種が確認された。保全すべき種一覧は表 9.9-7、調査時期別の保全すべき種の確認位置は図 9.9-2(1)～(4)、保全すべき種の生態及び確認状況は表 9.9-8(1)～(16)に示すとおりである。

表 9.9-7 保全すべき種一覧 (植物)

No.	分類	科名	種名	対象事業実施区域		選定基準						備考		
				内	外	文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	2019 環境省 R L	埼玉県 R D B			
-	シダ植物	イワヒバ	カタヒバ	○								(NT)	植栽・逸出	
1		ハナヤスリ	コハナヤスリ		●							EN		
2		ミズワラビ	ミズワラビ		●							NT		
-	裸子植物	マツ	ヒメコマツ	○								(NT)	植栽	
3	離弁花類	タデ	シロバナサクラタデ		●							NT		
4			コギシギシ		●							VU	VU	
5			マツモ	マツモ		●							VU	
-			ドクダミ	ハンゲショウ		○							(VU)	植栽
6			アブラナ	コイヌガラシ		●							NT	NT
7			ユキノシタ	タコノアシ		●							NT	VU
8			バラ	ナガボノシロワレモコウ		●								NT
9				ナガボノアカワレモコウ		●								VU
-				ワレモコウ属の一種		●								NT/VU
10			ウリ	ゴキヅル		●								VU
11			アカバナ	ウスゲチョウジタデ		●							NT	VU
12			アリノトウグサ	ホザキノフサモ		●								EN
13		合弁花類	サクラソウ	ヌマトラノオ		●								NT
14				カワヂシャ		●							NT	VU
15		単子葉類	ヒルムシロ	イトモ		●							NT	VU
16				カヤツリグサ	ウマスゲ		●							NT
-			ラン	シラン	○								(NT)	(EN)
-	-	14科	16種	0種	16種	0種	0種	0種	0種	6種	16種			

- 注 1) 種名・配列は、基本的に「植物目録 1987」(昭和 63 年、環境庁)に従った。
 2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.9-5 のとおりである。
 3) 確認状況を○で示したカタヒバ、ヒメコマツ、ハンゲショウ、シランの4種は植栽された個体と考えられるため、保全すべき種から除外し、保全すべき種の選定基準は括弧をつけた表記とした。帰化などの判断は「外来種ハンドブック」(平成 14 年、日本生態学会)、「日本帰化植物写真図鑑」(平成 13 年、全国農村教育協会)、「日本帰化植物写真図鑑 第2巻」(平成 27 年、全国農村教育協会)、「日本の帰化植物」(平成 15 年、平凡社)などを参考にした。
 4) ワレモコウ属の一種は、同定根拠となる開花状況が確認できず、ナガボノシロワレモコウかナガボノアカワレモコウかを識別できなかったものを指す。いずれも保全すべき種に該当しており、ここでは保全すべき種に含め、保全すべき種の選定基準は両種のもの併記した。

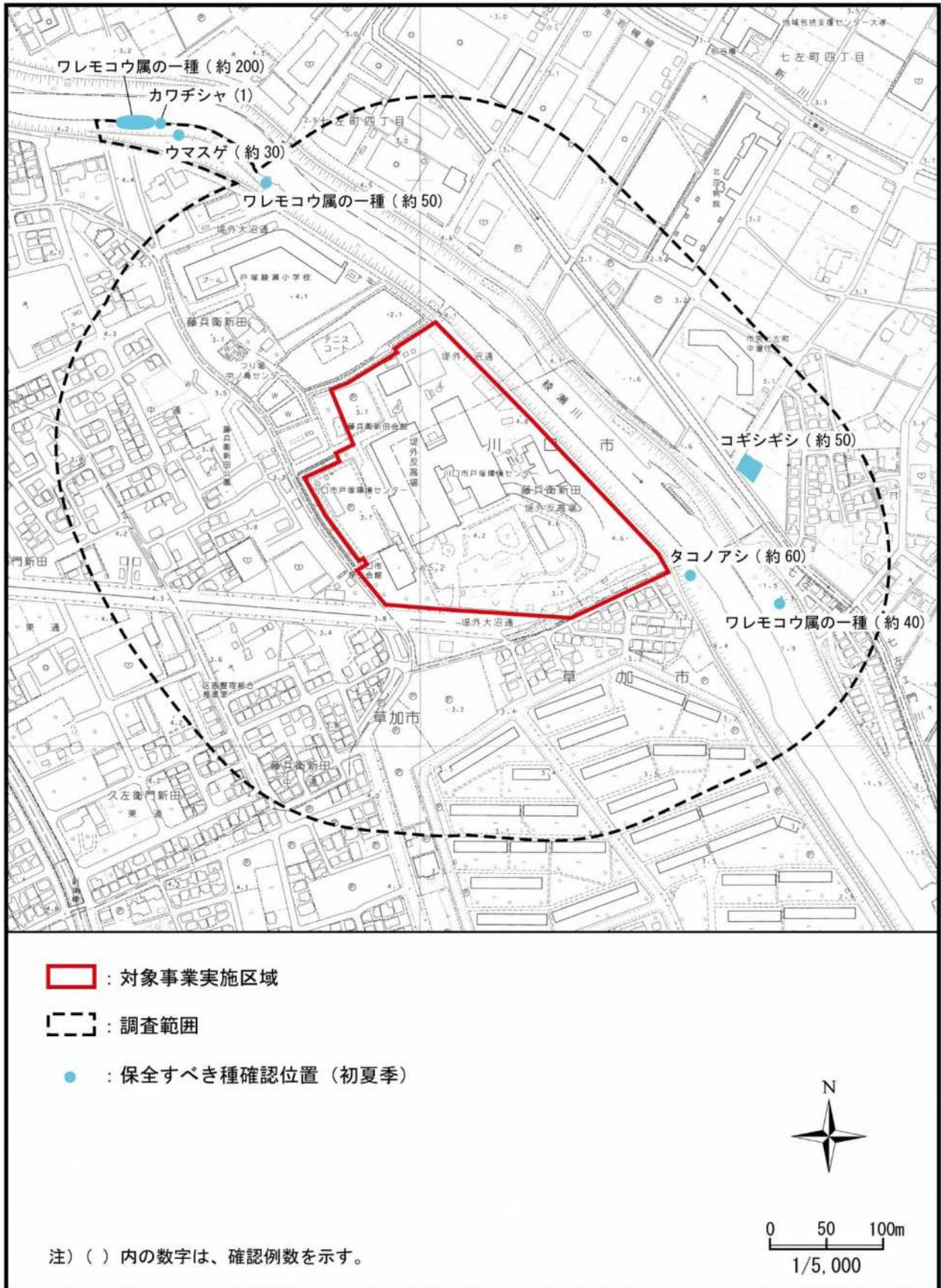


図 9.9-2(1) 保全すべき種の確認位置 (植物相：初夏季)

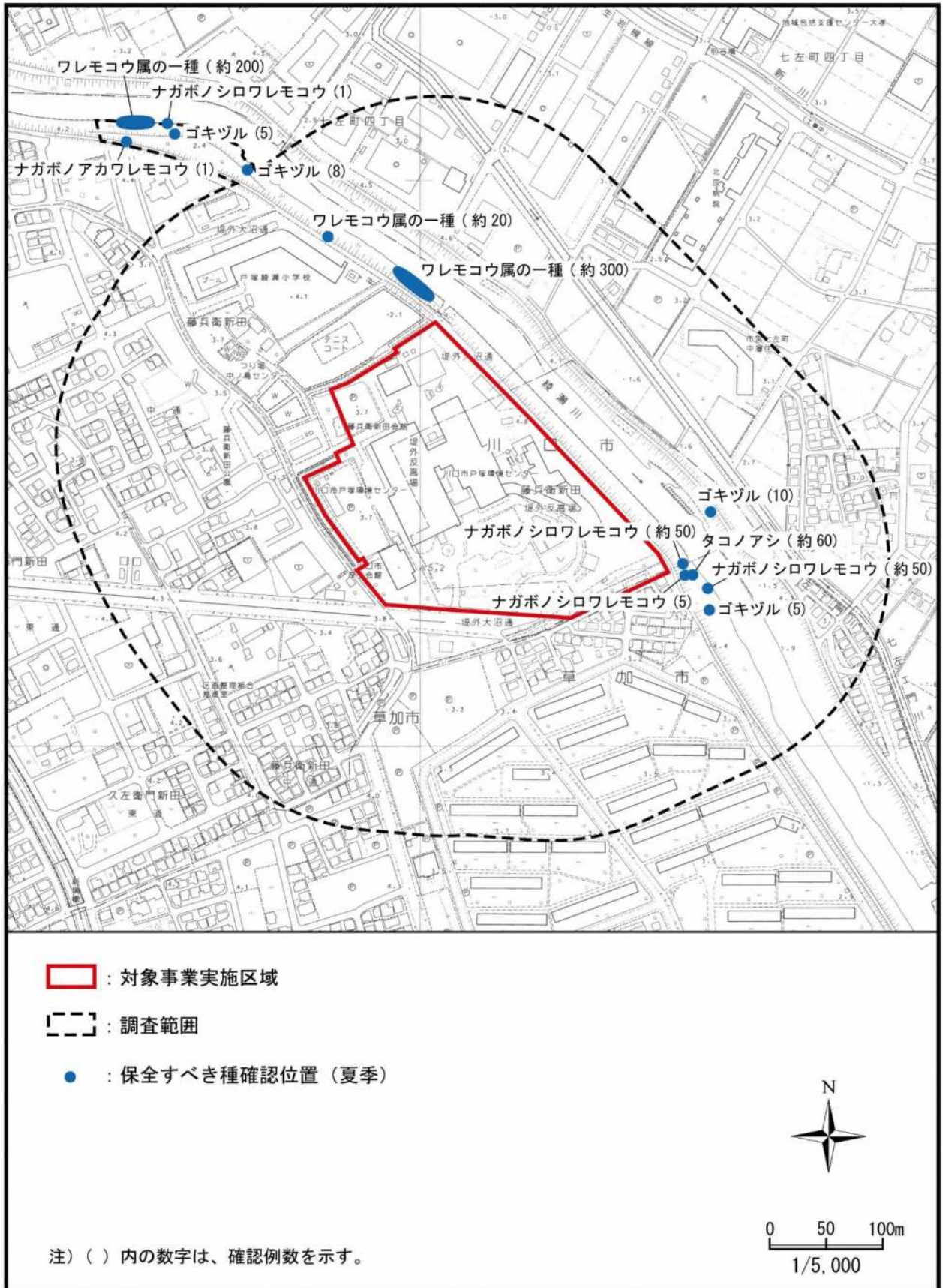
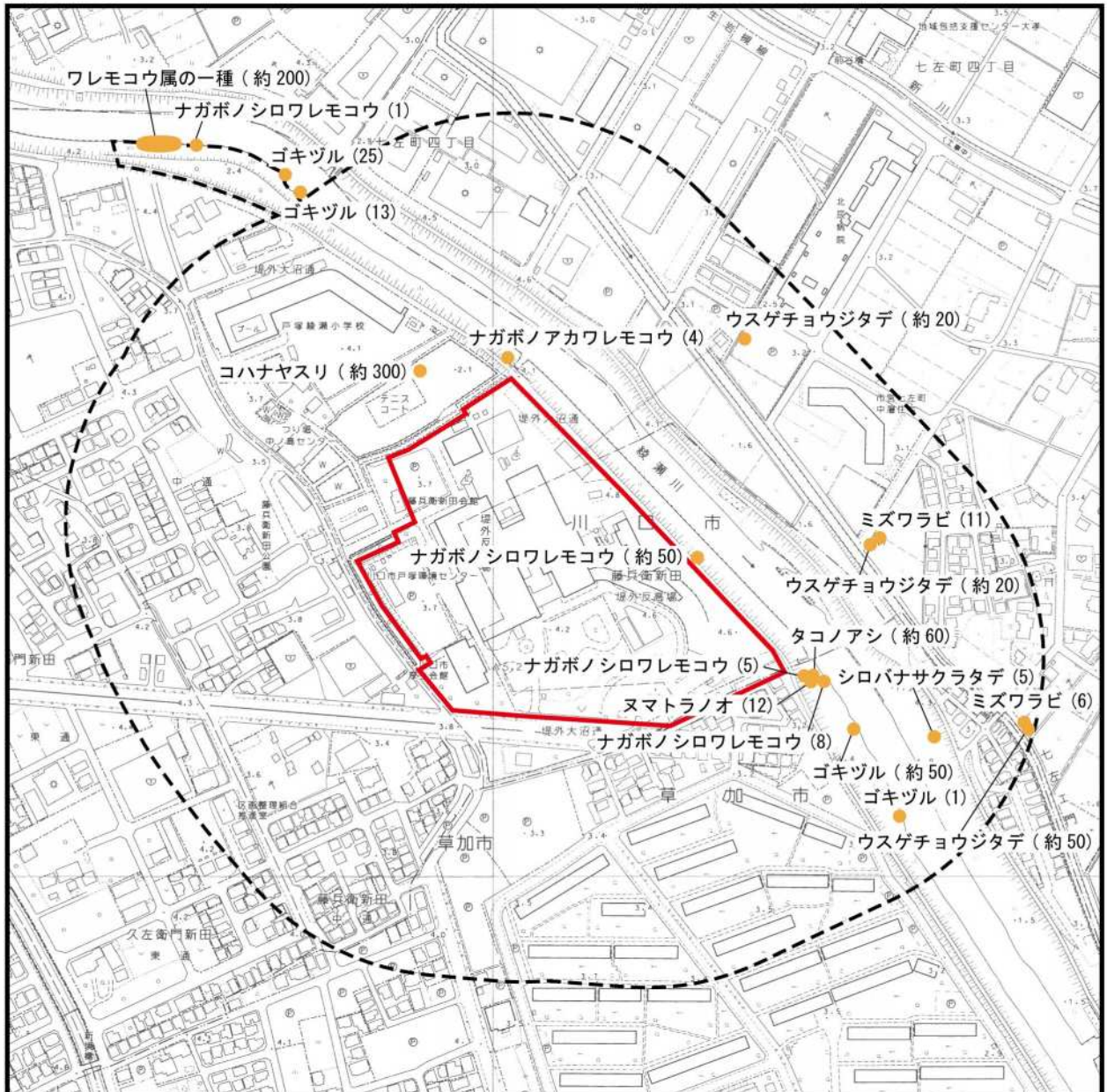


図 9.9-2(2) 保全すべき種の確認位置 (植物相：夏季)



: 対象事業実施区域

: 調査範囲

● : 保全すべき種確認位置 (秋季)

注) () 内の数字は、確認例数を示す。

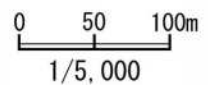
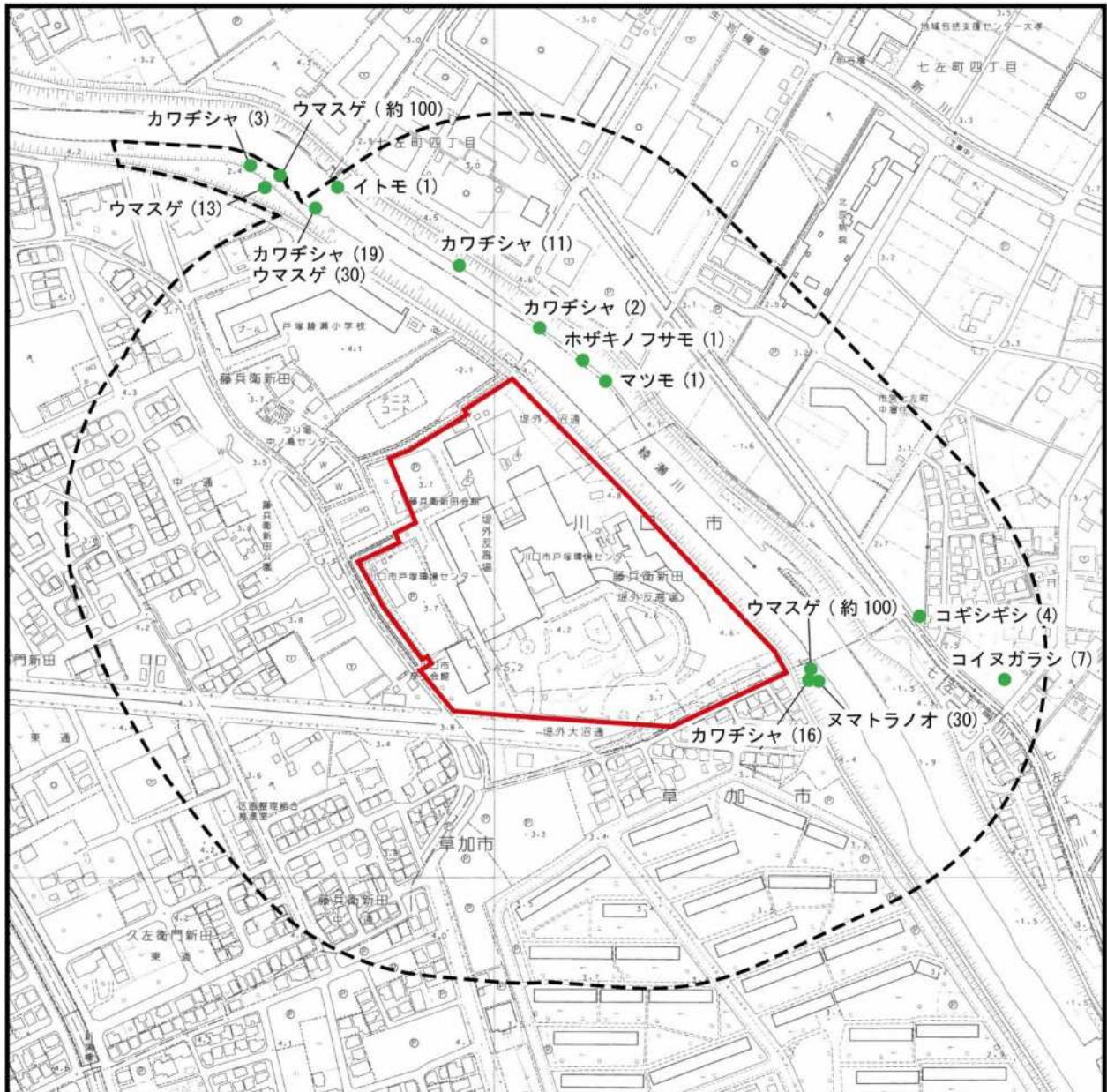


図 9.9-2(3) 保全すべき種の確認位置 (植物相：秋季)



- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- : 保全すべき種確認位置 (春季)

注) () 内の数字は、確認例数を示す。

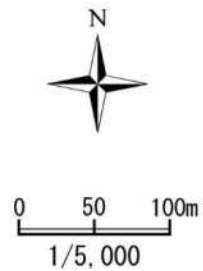




図 9.9-2(4) 保全すべき種の確認位置 (植物相：春季)

表 9.9-8(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ハナヤスリ科		
種名	コハナヤスリ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧 I B 類	
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】夏緑性の小型のシダ植物で、細い茎を伸ばし先のほうに孢子葉（実葉）をつけ、下の方にスプーン状の栄養葉（裸葉）を1枚つける。</p> <p>【主な生育環境】明るい草地などに群落を作り生育している。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	丘陵北、低山西、大宮台地に分布		
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外、戸塚環境センター北側のテニスコート脇の草地で約 300 例が確認され、孢子葉が見られた。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 ：「愛媛県レッドデータブック 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物」（愛媛県ホームページ）

表 9.9-8(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ミズワラビ科		
種名	ミズワラビ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】一年生の水生シダ。栄養葉（裸葉）はヨモギの葉に似た形状で地面に張り付くように生え、その後出てくる孢子葉（実葉）はシカの角状に細かく分枝をしながら成長する。高さ5 cm くらいのをよく見るが、場所によっては40 cm くらいまで成長する。</p> <p>【主な生育環境】稲刈り跡の水田や畦、土壌水位の高い放棄水田などで見られる。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	丘陵南、大宮台地、加須・中川低地に分布		
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外の水田の畔2箇所です計17例が確認され、孢子葉が見られた。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）
 「愛媛県レッドデータブック 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物」（愛媛県ホームページ）

表 9.9-8(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	タデ科		
種名	シロバナサクラタデ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州、四国、九州、沖縄		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】高さ 50～100cm になる多年草。地下茎は長く伸び、分枝する。茎は直立し、よく分枝する。葉は披針形、両端は鋭形で、脈上や縁に伏毛があり、互生する。托葉鞘は長い筒形で、伏毛があり、長い縁毛がある。</p> <p>【主な生育環境】低地の日当りのよい水辺に生育する。</p>		
県内での生育状況	加須・中川低地～台地・丘陵帯に分布する。		
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷で 5 例が確認され、開花が見られた。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 ：「いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版」（岩手県ホームページ）

表 9.9-8(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	タデ科		
種名	コギシギシ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州（関東以西）、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。小型で高さは30～50cm。葉は長楕円状倒披針形で鈍頭、基部は円形、長さ4～6cmになり、両面無毛。</p> <p>【主な生育環境】河川沿いの砂地、田の畦、造成地等の土壌攪乱のある日当たりのよい湿った草地。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地、大宮台地に分布する。		
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域外の水田で約50例が確認され、結実が見られた。</p> <p>春季：対象事業実施区域外の水田で4例が確認され、開花、結実が見られた。</p>		


資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）
 ：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（平成30年、栃木県）

表 9.9-8(5) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	マツモ科		
種名	マツモ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	全国に分布する。		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】根は無い。茎は20～100cmで分枝する。葉は5～8個が輪生し、1、2回二叉に裂け、裂片は線形、長さ10～25cm。雌雄異花。花は極めて小さく、花被片は目立たない。雄花は雄蕊が10～20個あり、雌花は雌蕊が1個ある。</p> <p>【主な生育環境】湖沼、溜池、水路等に生育し、沈水性で普通浮遊する。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地～台地帯の水域に分布する。		
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で1例が確認された。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）
 「岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版準絶滅危惧（1）」（岐阜県ホームページ）

表 9.9-8(6) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	アブラナ科		
種名	コイヌガラシ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州、四国、九州		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】一年草または越年草。草丈 10～40cm。茎葉は長楕円形、長さ 2～4cm で羽状に深裂し、基部は小さい耳状に茎を抱く。花は葉腋に単生する。</p> <p>【主な生育環境】水湿地、休耕田。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地～低山帯にかけて広く分布する。		
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の水田の畔で 7 例が確認され、開花、結実がみられた。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（平成 30 年、栃木県）

表 9.9-8(7) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）



科名	ユキノシタ科		
種名	タコノアシ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。茎の基部から地中に数本の走出枝を出す。茎は直立して分岐せず、高さ 30～80cm、無毛で淡紅色を帯びる。</p> <p>【主な生育環境】日当たりのよい泥湿地、沼、水田、河原等を好むが、かなりの乾燥に耐える。このため、水位の変動する場所に群落をつくる。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地～低山帯の水田地帯にかけて広く分布する。		
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で約 60 例が確認された。</p> <p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で約 60 例が確認され、開花が見られた。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で約 60 例が確認され、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」

（平成 30 年、栃木県）

表 9.9-8(8) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）



科名	バラ科		
種名	ナガボノシロワレモコウ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。根茎は太く、葉は根生する。根出葉は 11～15 個の小葉から成る。小葉は長楕円状線形で長さ 2～8cm、幅 1～2cm。茎は高さ 80～130cm で、その先に花穂をつける。</p> <p>【主な生育環境】トダシバ、ヌマガヤ等の生育する湿地、水田の土手等。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	県の南部・東部の荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に広く分布		
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で 1 例、調査範囲南東側の湿地 3 箇所計約 105 例が確認され、開花が見られた。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で 1 例、戸塚環境センター東側の敷地外の草地で約 50 例、調査範囲南東側の湿地 2 箇所計 13 例が確認され、開花が見られた。</p> <p>（ワレモコウ属の一種）</p> <p>初夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約 200 例、綾瀬川の河川敷の湿地 2 箇所計約 90 例が確認された。</p> <p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約 200 例、綾瀬川堤防上の道路際で約 20 例、綾瀬川の河川敷の草地で約 300 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約 200 例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」

（平成 30 年、栃木県）

表 9.9-8(9) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）



科名	バラ科		
種名	ナガボノアカワレモコウ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】高さ1～1.5mの多年草。葉は、多数の小葉から成る奇数羽状複葉で、表面に光沢がある。小葉は長楕円状線形で、縁には粗い鋸歯がある。</p> <p>【主な生育環境】低地～山地で、ヌマガヤ等が生育する日当たりのよい湿原、水田周辺の土手、河川堤防の草地等。</p>		
県内での生育状況	県の南部・東部の荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に広く分布		
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森のセイタカアワダチソウの草地で1例が確認され、開花が見られた。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地で4例が確認され、蕾が見られた。</p> <p>（ワレモコウ属の一種）</p> <p>初夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約200例、綾瀬川の河川敷の湿地2箇所計約90例が確認された。</p> <p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約200例、綾瀬川堤防上の道路際で約20例、綾瀬川の河川敷の草地で約300例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約200例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」



（平成30年、栃木県）

表 9.9-8(10) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ウリ科		
種名	ゴキヅル		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】1年生のつる植物。葉は互生。雌雄同株。花は8-11月に咲き果実は熟すと蓋を開けるように真ん中で割れ、扁平な種が2個落ちる。</p> <p>【主な生育環境】河川敷、池沼の周辺の水辺に見られる。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地に分布		
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地2箇所ですべて計13例、調査範囲南東側の湿地2箇所ですべて計15例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地2箇所ですべて計38例、調査範囲南東側の湿地2箇所ですべて計約51例が確認され、開花、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）
 ：「岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版準絶滅危惧（1）」（岐阜県ホームページ）

表 9.9-8(11) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）


科名	アカバナ科		
種名	ウスゲチョウジタデ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州（関東以西）、四国、九州、沖縄		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】一年草。茎は直立し、高さ15～100cmになり、細毛がある。葉は互生する。花弁がある。雄しべはふつう5個。</p> <p>【主な生育環境】低地の日当たりのよい水田や湿地。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地～台地帯に分布している。		
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外のクワイ畑や水田の畔の3箇所です約90例が確認された。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」



（平成30年、栃木県）

表 9.9-8(12) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	アリノトウグサ科		
種名	ホザキノフサモ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧 I B 類	
分布状況	全国に分布する。		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。沈水性の水生植物。草長 30～150 cm。茎の各節に長さ 1～3 cm の葉が 4 枚輪生する。葉身は羽状に細裂し、各羽片は糸状。6～9 月、茎頂から花柄を伸ばし、水面に穂状花序を抽出する。花序は長さ 3～10 cm で上部には雄花、下部には雌花をつける。花弁はないが、雄花には紅色の花被がある。フサモに似ているが、花序に気中葉を生じない点異なる。</p> <p>【主な生育環境】湖沼、ため池、河川に生育する。</p>		
県内での生育状況	加須・中川低地に分布		確認環境
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で 1 例が確認された。		



資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 ：「レッドデータブックふくしま I 植物・昆虫類・鳥類」（福島県ホームページ）

表 9.9-8(13) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	サクランソウ科		
種名	ヌマトラノオ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国、台湾、インドシナにも見られる。		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】</p> <p>高さ 40～70cm。茎は直立し、円柱状で赤みを帯び、ときに枝分かれする。葉は比較的密に互生して、柄はなく、長さ 4～7cm で細長い。先は短くとがり、両面にはほとんど毛がなく、腺点が散生する。枝分かれした茎の先に直立した総状花序をつける。</p> <p>【主な生育環境】河川敷、休耕田等の湿性の草地に生育する。</p>		
県内での生育状況	低地帯～丘陵帯に広く分布する。		確認環境
現地確認状況	<p>秋 季：対象事業実施区域外、調査範囲南東側の綾瀬川の河川敷で 12 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で 30 例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 ：「日本野生植物館 WILD PLANTS OF JAPAN」（平成 9 年、小学館）


表 9.9-8(14) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ゴマノハグサ科		
種名	カワヂシャ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州、四国、九州、沖縄		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】超年草。茎は30～50cm。葉は柄がなく、長楕円状披針形で、長さ4～7cm、幅8～15cmになり、縁には小さいが明瞭な鋸葉がある。花は薄く紅色を帯びるが、ほぼ白色に近い。</p> <p>【主な生育環境】日当たりのよい河岸、水路、休耕田。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	低地帯～丘陵帯にかけて湿った場所に分布する。		
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の水際で1例が確認され、開花・結実が見られた。</p> <p>春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の水際4箇所です計48例、綾瀬の森の綾瀬川の水際で3例が確認され、開花、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（平成30年、栃木県）

表 9.9-8(15) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ヒルムシロ科			
種名	イトモ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	準絶滅危惧		
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類		
分布状況	北海道、本州、四国、九州、沖縄		確認个体	
形態・生育場所	<p>【形態】多年生の沈水植物。細い地下茎が横走り、1節おきに水中茎を伸ばす。沈水葉は線形、無柄、やや鋭頭。</p> <p>【主な生育環境】低地帯の澄んだ溜池や沼。</p>			
県内での生育状況	低地帯～丘陵帯に分布している。			確認環境
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で1例が確認された。			

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 ：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（平成 30 年、栃木県）

表 9.9-8(16) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	カヤツリグサ科		
種名	ウマスゲ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州（関東以西）、四国、九州		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。稈は叢生するが、長い走出枝を出す。ヤマクボスゲに似るが、葉はより厚くて軟らかい。</p> <p>【主な生育環境】低地帯の河畦の低沼地。</p>		
県内での生育状況	低山西、丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。		
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿った林縁で約 30 例が確認され、結実が見られた。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で約 100 例、綾瀬の森の綾瀬川の水際 3 箇所計 143 例が確認され、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（平成 30 年、栃木県）

イ 植生の状況

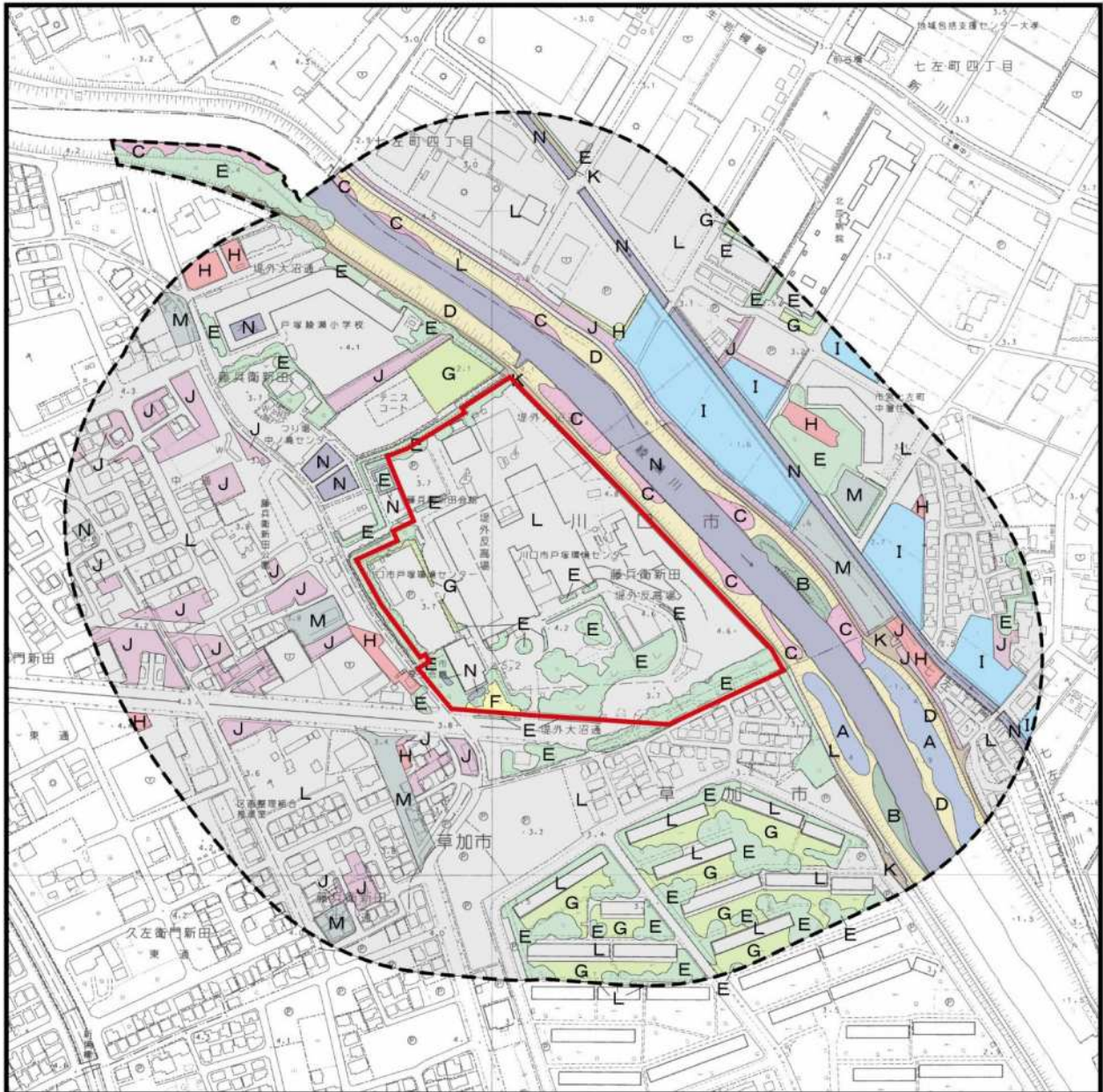
現地調査の結果、4つの代償植生、7つの植林地・耕作地植生、3つのその他の区分の計14区分が確認された。確認された植生一覧は表9.9-9に、植生図は図9.9-3に示すとおりである。

対象事業実施区域内の大部分は市街地などであり、植生群落等は、植林地・耕作地植生である植栽、竹林、管理草地、開放水域が存在している。

表 9.9-9 植生一覧

番号	区分	群落名	優占種
A	代償植生	チガヤーチゴザサ群落	チガヤ
B		ヨシ群落	ヨシ
C		アレチウリーオオオナモミ群落	アレチウリ
D		クワモドキーセイバンモロコシ群落	セイバンモロコシ
E	植林地・耕作地植生	植栽	ソメイヨシノ、ケヤキ、コナラ等
F		竹林	モウソウチク、スダジイ、サツキ
G		管理草地	ムラサキツメクサ
H		畑地雑草群落	ナス、ゴウシュウアリタソウ、スベリヒユ
I		水田雑草群落	イネ、アオウキクサ、クワイ
J		荒地雑草群落	チガヤ、キクイモ、ムラサキツメクサ
K		路傍雑草群落	ホソムギ、ムラサキツメクサ
L	その他	市街地など	—
M		造成地	—
N		開放水域	—

注) 表中の記号は、図9.9-3に対応する。



: 対象事業実施区域

: 調査範囲

I 代償植生

- A チガヤ-チゴザサ群落
- B ヨシ群落
- C アレチウリ-オオオナモミ群落
- D クワモドキ-セイバンモロコシ群落

II 植林地・耕作地植生

- E 植栽
- F 竹林
- G 管理草地
- H 畑地雑草群落
- I 水田雑草群落
- J 荒地雑草群落
- K 路傍雑草群落

III その他

- L 市街地など
- M 造成地
- N 開放水域



0 50 100m
1/5,000

図 9.9-3 植生図

ウ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

(ア) 緑被率

現地調査の結果、調査範囲内の緑被率は 31.1%、対象事業実施区域の緑被率は 21.9%であった。緑被率の結果は表 9.9-10 に示すとおりである。

緑の量としてカウントした群落等は、チガヤーチゴザサ群落、ヨシ群落、アレチウリーオオオナモミ群落、クワモドキーセイバンモロコシ群落、植栽、竹林、管理草地、畑地雑草群落、水田雑草群落、荒地雑草群落及び路傍雑草群落とした。

表 9.9-10 緑の量（緑被率）




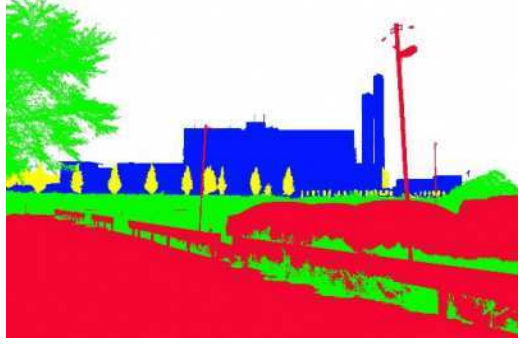
調査項目	番号	群落名	調査範囲		対象事業実施区域		
			面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	
緑の量（緑被率）	A	チガヤーチゴザサ群落	0.4	1.1	0.0	0.0	
	B	ヨシ群落	0.2	0.5	0.0	0.0	
	C	アレチウリーオオオナモミ群落	0.4	1.2	0.0	0.0	
	D	クワモドキーセイバンモロコシ群落	1.5	4.1	0.0	0.0	
	E	植栽	3.8	10.4	1.0	20.2	
	F	竹林	0.1	0.1	0.1	1.0	
	G	管理草地	1.1	3.0	0.0	0.6	
	H	畑地雑草群落	0.3	0.9	0.0	0.0	
	I	水田雑草群落	1.5	4.1	0.0	0.0	
	J	荒地雑草群落	1.6	4.5	0.0	0.0	
	K	路傍雑草群落	0.4	1.2	0.0	0.0	
			緑地面積/緑被率	11.3	31.1	1.1	21.9
			その他の区分の面積	25.0	68.9	3.8	78.2
		合計	36.3	100.0	4.8	100.0	

注) 面積は小数点第一位までの表記としており、端数処理を行っているため合計面積及び割合は一致しない。

(イ) 緑視率

現地調査の結果、No.1 地点からの眺望景観の緑視率は 41.0%、No.2 地点からの眺望景観の緑視率は 17.3%であった。緑視率の結果は表 9.9-11 に示すとおりである。

表 9.9-11 緑の量 (緑視率)

地点	緑の視認状況	緑視率
No.1	戸塚環境センター南	
		 【緑視率： 約 41.0%】
No.2	北辰病院駐車場付近	
		 【緑視率： 約 17.3%】

注) 緑視率の色分けの凡例

- 黄色：対象事業実施区域内の緑
- 緑色：対象事業実施区域外の緑
- 青色：対象事業実施区域内の構造物
- 赤色：対象事業実施区域外の構造物
- 白色：その他

9.9.2 予測

(1) 工事の実施及び施設の存在に伴う植物への影響

1) 予測内容

ア 保全すべき種、植生及び保全すべき群落

造成等の工事の実施及び施設の存在に伴う保全すべき種、植生及び保全すべき群落の生育地の改変の程度及びその他の生育環境への影響の程度を予測した。

イ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

造成等の工事の実施及び施設の存在に伴う緑の量（緑被率及び緑視率）の変化の程度を予測した。

2) 予測地域・地点

予測地域は、現地調査における調査範囲と同様の範囲とした。

予測地点は、予測地域全域とした。

なお、対象事業実施区域内における造成工事の範囲（改変される範囲）は図 9.9-4 に示すとおりである。

3) 予測対象時期等

工事中については、保全すべき種、植生及び保全すべき群落への影響が最大と考えられる時期として、造成工事の範囲が最大となる時期とした。

存在・供用時については、保全すべき種、植生及び保全すべき群落並びに緑の量への影響を的確に把握できる時期として、新施設の供用時の周辺環境が安定した時期とした。

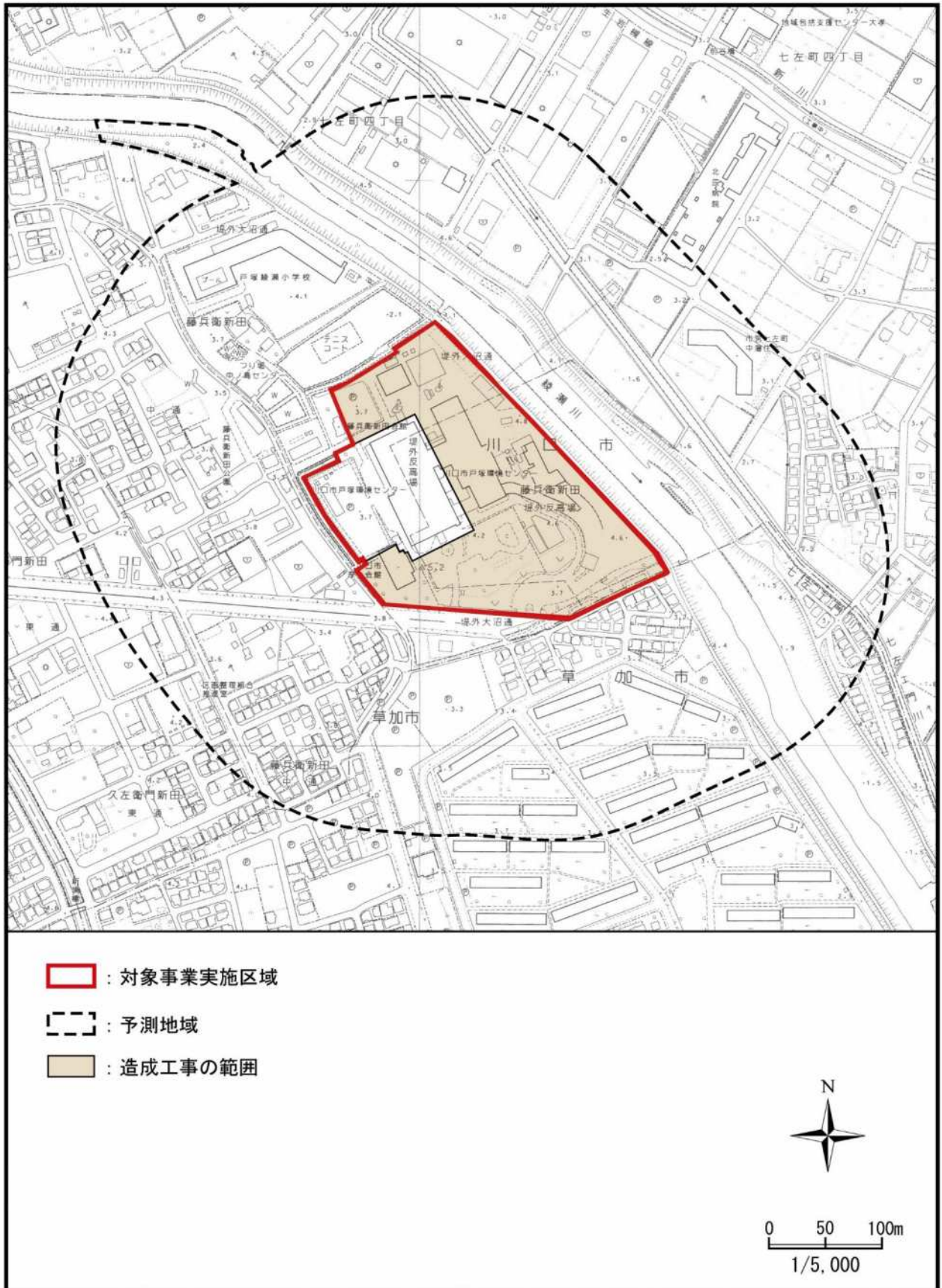


図 9.9-4 予測地域及び造成工事の範囲

4) 予測方法

ア 保全すべき種、植生及び保全すべき群落

工事中については、本工事計画に基づき保全すべき種、植生及び保全すべき群落の生育環境の変化の程度を把握したうえで、類似事例または既存知見を参考にして定性的に予測した。

存在・供用時については、本事業計画に基づき植生及び地形の改変内容と保全すべき種、植生及び保全すべき群落の生育確認位置との重ね合わせ等により定量的に予測した。

イ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

存在・供用時について、本事業計画と調査結果との重ね合わせ等により定量的に予測した。

(ア) 緑被率

事業計画に基づく緑地計画と、現地調査による植生図との重ね合わせにより、定量的に予測した。

(イ) 緑視率

後掲「9.11 景観 9.11.2 予測」において示す主要な眺望景観の予測結果（現況、将来）を基にして、フォトモニタージュ上の緑の割合を計測し、定量的に予測した。

5) 予測条件

ア 工事中の環境保全計画

建設機械の稼働及び資材運搬等の車両に関連する騒音・振動対策、水質汚濁防止対策等の工事中の環境保全計画は前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (5) 工事の概要 3) 工事に係る環境保全計画」に示すとおりである。

イ 存在・供用時の環境保全計画

(ア) 緑化計画

供用時における緑化計画は、前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (4) 対象事業で整備する施設の概要 14) 緑化計画」に示すとおりである。

6) 予測結果

ア 植物の生育環境の変化

植物種において、本事業で想定される影響の概要は表 9.9-12 に示すとおりである。

表 9.9-12 本事業で想定される影響の概要

影響の種類	想定される影響	工事中	存在・供用時	影響要因	影響を受ける生育環境
直接的な影響	生育環境の消失	○	△	(工事中) ・造成等の工事 (存在・供用時) ・施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・群落の消失や生育環境の面積減少といった直接的な影響が想定される。 ・存在・供用時は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」(平成18年3月)に記載された在来種を中心に植栽され、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹することから、影響は小さいと考えられる。
間接的な影響	水質の変化	—	/	(工事中) ・造成等の工事	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中は濁水が発生するが、仮設沈砂槽等により、土粒子を沈降させ、上澄みを排水する計画である。仮設沈砂槽等を経由した排水の水質(SS)は、綾瀬川の現地調査結果の水質と同程度以下にすることから、「埼玉県条例施行規則の排水基準」を遵守でき、綾瀬川の水質(SS)を悪化させないものと予測される。また、工事中に発生するアルカリ排水及び有害物質の汚染のおそれがある地下水は公共下水道に排水することから、綾瀬川の水質を悪化させない。したがって、間接的な影響はないと考えられる。
	光環境の変化	×	×	(存在・供用時) ・施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の稼働時間及び資材運搬等の車両の運行時間は原則として午前7時から午後6時までの時間であることから、夜間において照明による光環境の変化はないかあっても極めて小さいと考えられる。 ・高層建築物の建設予定はなく、高所からの照明による影響は想定されない。対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、対象事業実施区域内の照明による植物の生育環境への影響は極めて小さいと考えられる。

注) 表中の凡例

○：影響が想定される。

△：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。

×

—：影響はないと考えられる。

イ 各種の予測結果

保全すべき種の予測結果の概要は表 9.9-13 に、保全すべき種ごとの予測結果は表 9.9-14(1)～(17)に示すとおりである。

表 9.9-13 保全すべき種の予測結果の概要

分類	種名	保全すべき種 選定根拠	確認例数		主な生育環境の面積			影響の 大きさ
			対象事業実施区域		現況 (ha)	消失 (ha)	割合 (%)	
			内	外				
植物	コハナヤスリ	埼玉県：EN	0	約 300	5.8	0	0	×
	ミズワラビ	埼玉県：NT	0	17	1.5	0	0	×
	シロバナサクラタデ	埼玉県：NT	0	5	5.8	0	0	×
	コギシギシ	環境省：VU 埼玉県：VU	0	約 54	1.7	0	0	×
	マツモ	埼玉県：VU	0	1	2.3	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	コイヌガラシ	環境省：NT 埼玉県：NT	0	7	1.7	0	0	×
	タコノアシ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	約 180	7.5	0	0	×
	ナガボノシロワレモコウ	埼玉県：NT	0	約 170	7.5	0	0	×
	ナガボノアカワレモコウ	埼玉県：VU	0	5	7.5	0	0	×
	ワレモコウ属の一種	埼玉県：NT/VU	0	約 1,010	7.5	0	0	×
	ゴキヅル	埼玉県：VU	0	約 117	7.5	0	0	×
	ウスゲチョウジタデ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	約 90	1.7	0	0	×
	ホザキノフサモ	埼玉県：EN	0	1	2.3	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	ヌマトラノオ	埼玉県：NT	0	42	1.7	0	0	×
	カワヂシャ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	52	4.0	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	イトモ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	1	2.3	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	ウマスゲ	埼玉県：NT	0	約 273	1.7	0	0	×

注 1) 保全すべき種の選定根拠となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.9-5 のとおりである。

2) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないため、改変区域内の生育環境から除外した。

3) 表中の凡例

○：影響が想定される。

△：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。

×：本事業では影響は限定的であり、影響は極めて小さいと考えられる。

—：影響はないと考えられる。

表 9.9-14(1) 保全すべき種の予測結果 (コハナヤスリ)

項目	内容				
主な生育環境	明るい草地等に群落を作り生育している。				
	予測地域 (ha)	5.8	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外、戸塚環境センター北側のテニスコート脇の草地で約 300 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 300 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたコハナヤスリは約 300 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、明るい草地等である。事業実施区域内に乾性草地（管理草地）が存在するが、変更区域には含まれないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

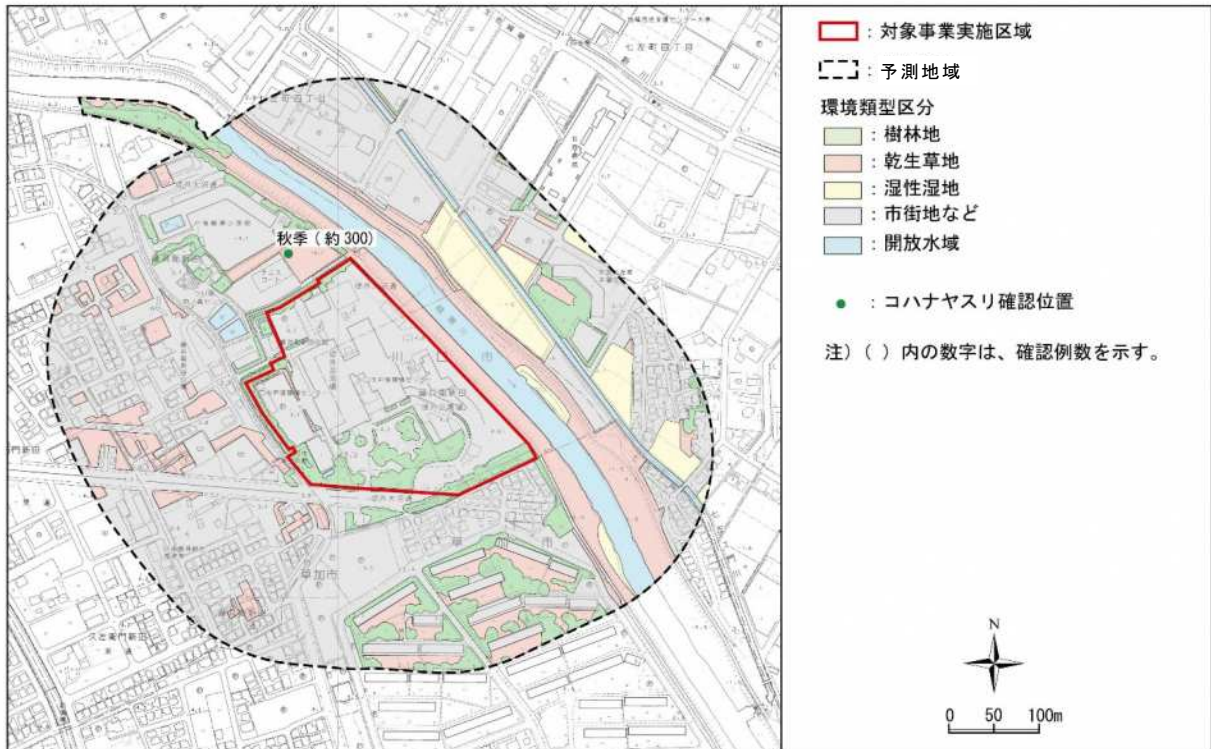


表 9.9-14(2) 保全すべき種の予測結果 (ミズワラビ)

項目	内容				
主な生育環境	稲刈り跡の水田や畦、土壌水位の高い放棄水田等で見られる。				
	予測地域 (ha)	1.5	対象事業実施区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田の畔 2 箇所計 17 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	17 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたミズワラビは 17 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、水田や畦、土壌水位の高い放棄水田等であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の変更による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

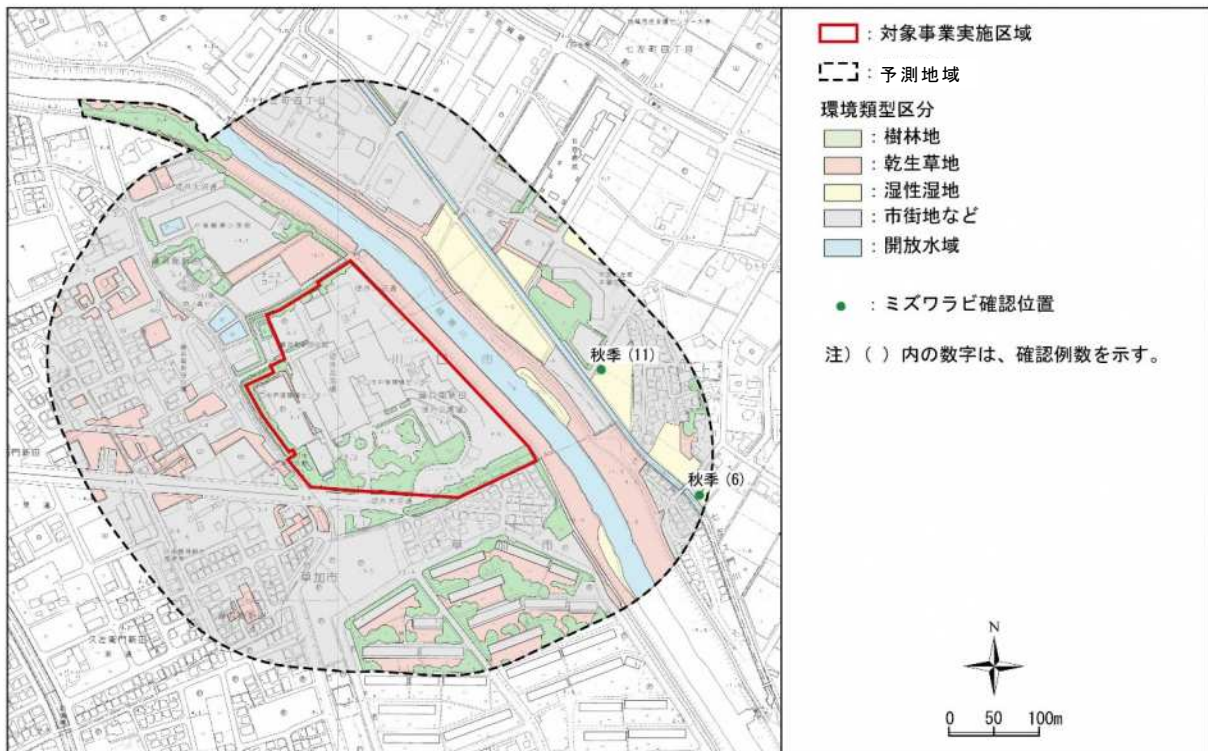


表 9.9-14(3) 保全すべき種の予測結果 (シロバナサクラタデ)

項目	内容					
主な生育環境	低地の日当たりのよい水辺に生育する。					
	予測地域 (ha)	5.8	対象区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)	0
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷で 5 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	5 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたシロバナサクラタデは 5 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、低地の日当たりのよい水辺であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

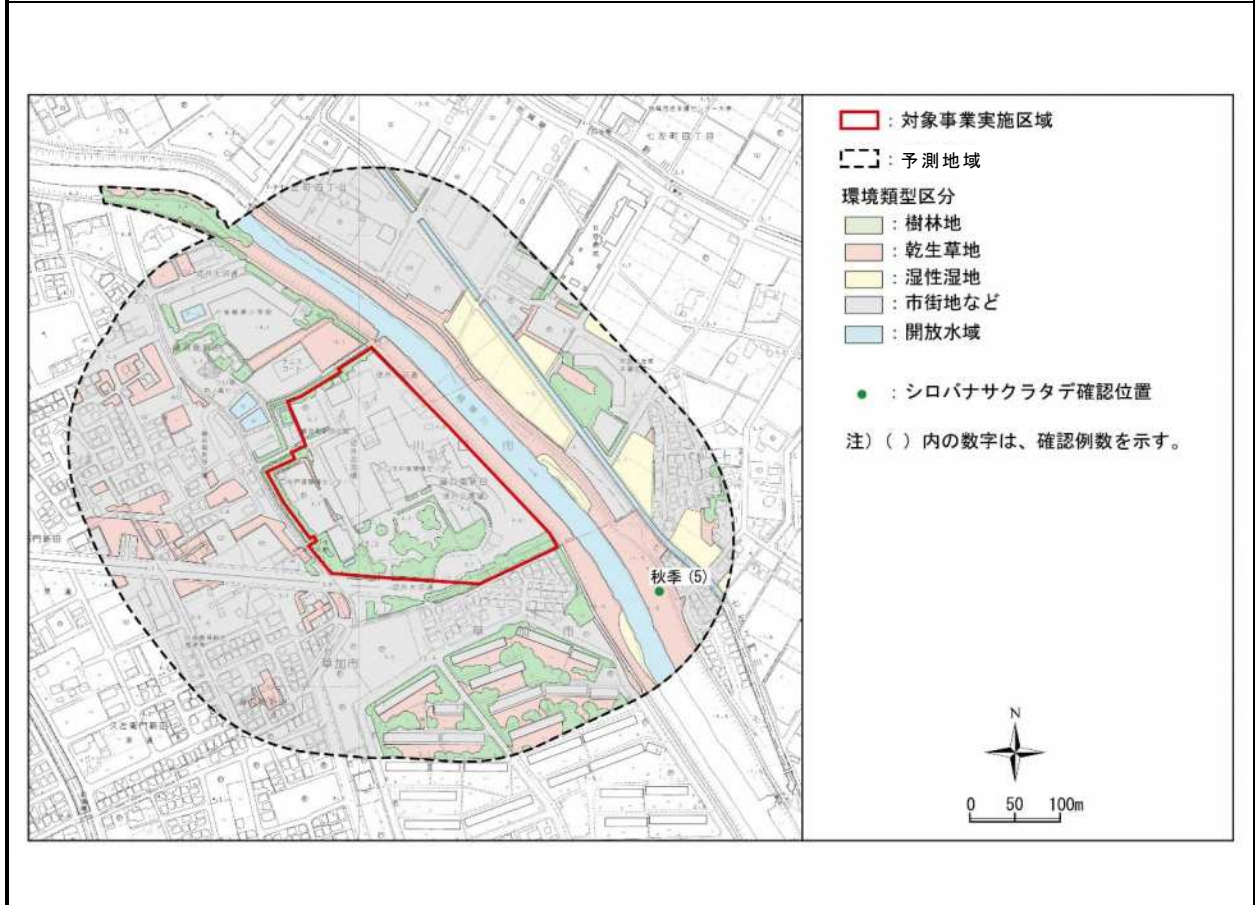


表 9.9-14(4) 保全すべき種の予測結果 (コギシギシ)

項目	内容					
主な生育環境	河川沿いの砂地、田の畦、造成地等の土壌攪乱のある日当たりのよい湿った草地。					
	予測地域 (ha)	1.7	対象区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)	0
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田で計約 54 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 54 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたコギシギシは約 54 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、河川沿いの砂地、田の畦、造成地等の土壌攪乱のある日当たりのよい湿った草地であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

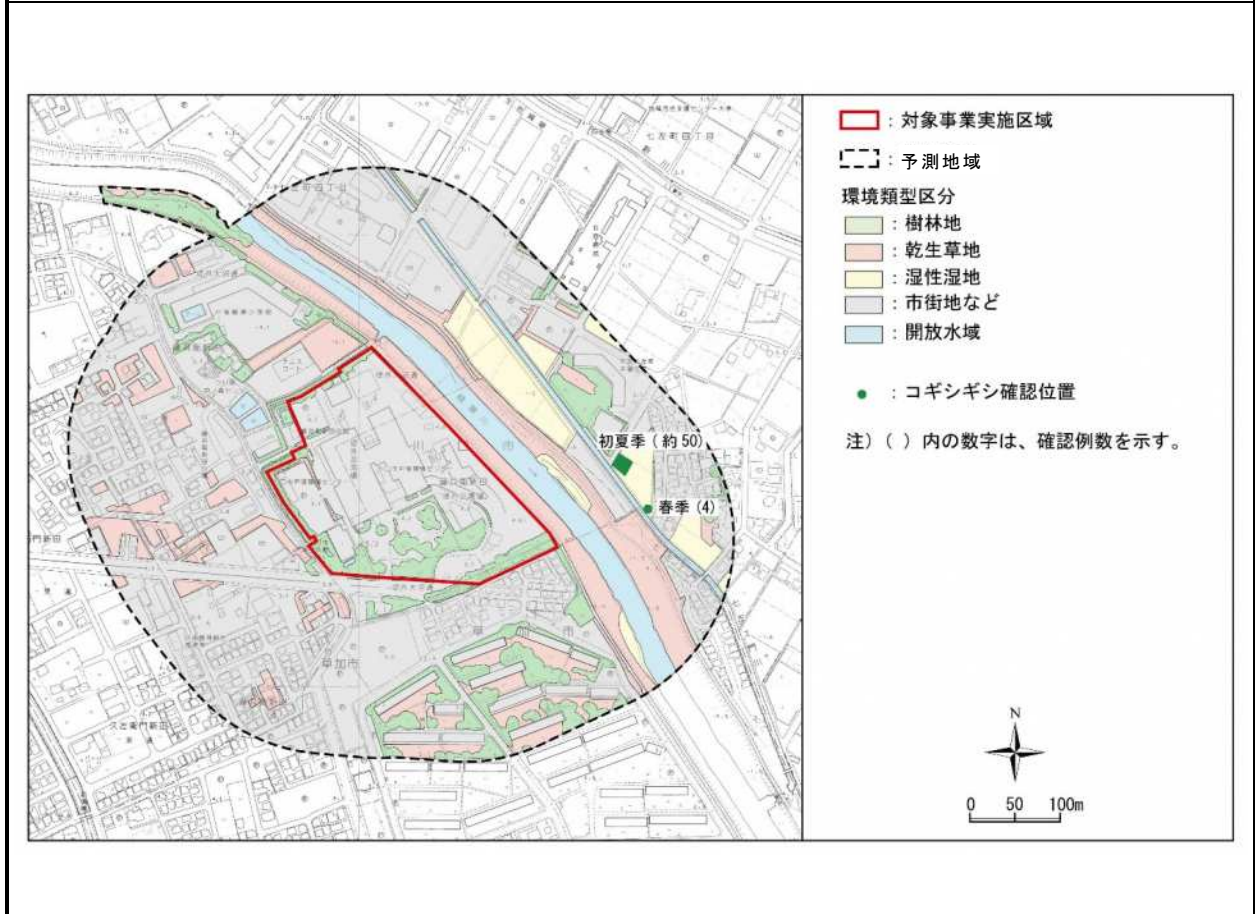
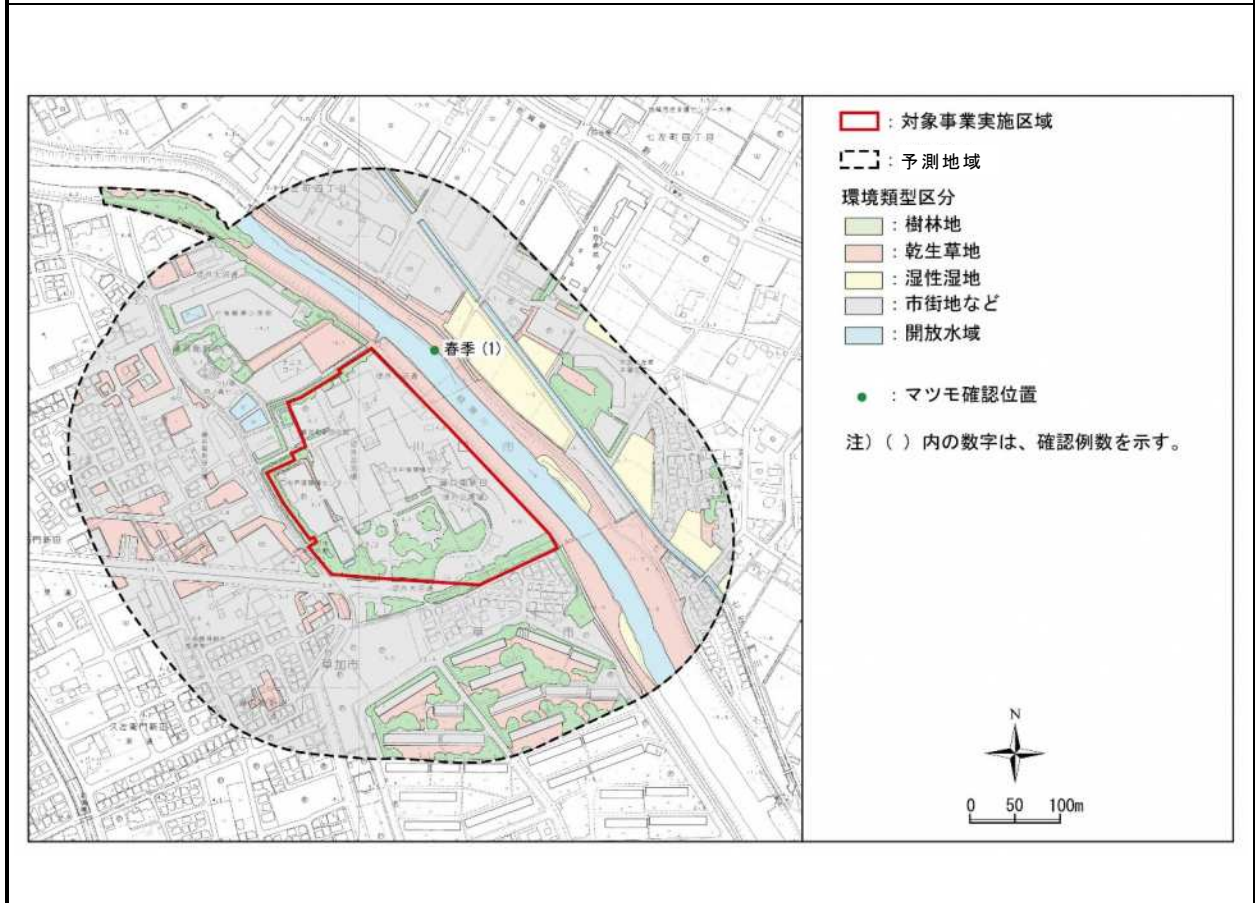


表 9.9-14(5) 保全すべき種の予測結果 (マツモ)

項目	内容				
主な生育環境	湖沼、溜池、水路等に生育する。				
	予測地域 (ha)	2.3	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川で1例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	1例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたマツモは1例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、湖沼、溜池、水路等である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の変更による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置



注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないため、変更区域内の生育環境から除外した。

表 9.9-14(6) 保全すべき種の予測結果 (コイヌガラシ)

項目	内容				
主な生育環境	水湿地、休耕田。				
	予測地域 (ha)	1.7	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田の畔で7例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	7例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたコイヌガラシは7例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、水湿地、休耕田であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

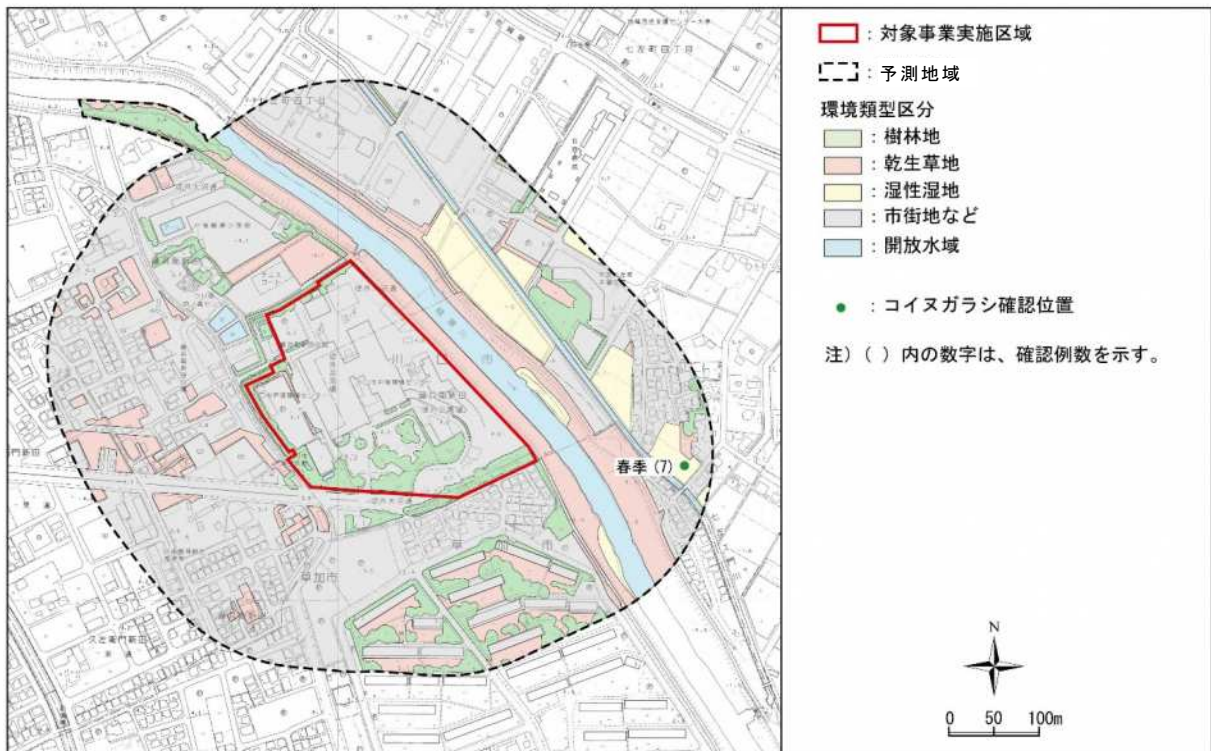


表 9.9-14(7) 保全すべき種の予測結果 (タコノアシ)

項目	内容				
主な生育環境	日当たりのよい泥湿地、沼、水田、河原等を好むが、かなりの乾燥に耐える。このため、水位の変動する場所に群落をつくる。				
	予測地域 (ha)	7.5	対象事業実施区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川河川敷の湿地で計約 180 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 180 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたタコノアシは約 180 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、日当たりのよい泥湿地、沼、水田、河原等であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の変更による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> ▭ : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : タコノアシ確認位置 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p> <p style="text-align: center;">初夏季 (約 60) 夏季 (約 60) 秋季 (約 60)</p>					

表 9.9-14(8) 保全すべき種の予測結果 (ナガボノシロワレモコウ)

項目	内容				
主な生育環境	トダシバ、ヌマガヤ等の生育する湿地、水田の土手等				
	予測地域 (ha)	7.5	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で計 2 例、調査範囲南東側の湿地 4 箇所です約 118 例、対象事業実施区域東側の敷地外の草地で約 50 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 170 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたナガボノシロワレモコウは約 170 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、湿地、水田の土手等であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の変更による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

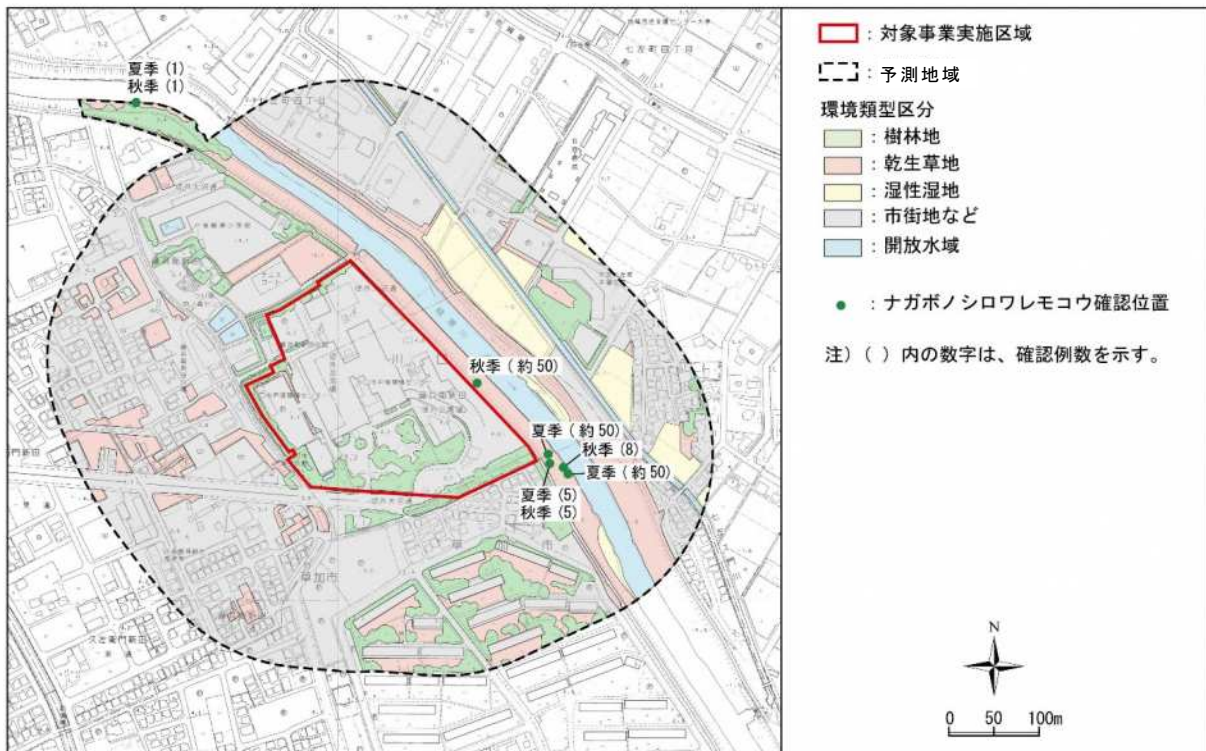


表 9.9-14(9) 保全すべき種の予測結果 (ナガボノアカワレモコウ)

項目	内容					
主な生育環境	低地～山地の、ヌマガヤ等が生育する日当たりのよい湿原、水田周辺の土手、河川堤防の草地等。					
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)	0
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬の森のセイタカアワダチソウの草地で 1 例、対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地で 4 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	5 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたナガボノアカワレモコウは 5 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、日当たりのよい湿原、水田周辺の土手、河川堤防の草地等であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

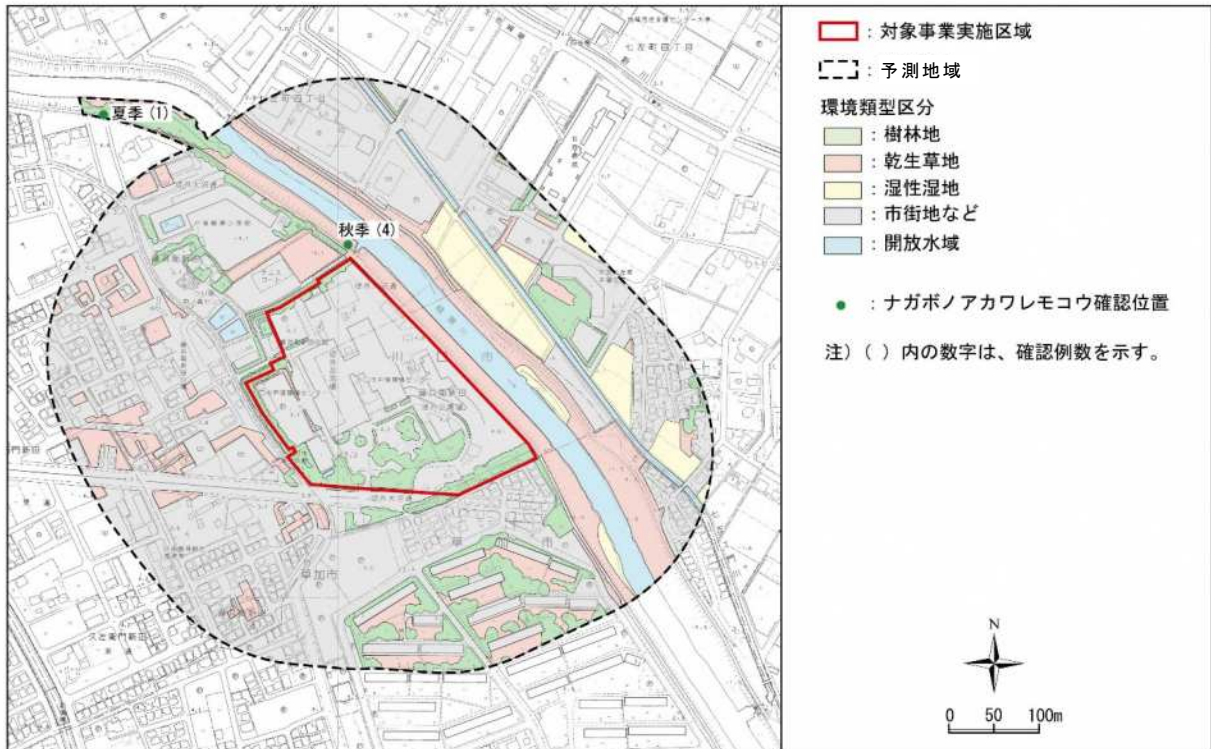


表 9.9-14(10) 保全すべき種の予測結果（ワレモコウ属の一種）

項目	内容				
主な生育環境	【ナガボノシロワレモコウ】 トダシバ、ヌマガヤ等の生育する湿地、水田の土手等 【ナガボノアカワレモコウ】 低地～山地でヌマガヤ等が生育する日当たりのよい湿原、水田周辺の土手、河川堤防の草地等。				
	予測地域 (ha)	7.5	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約 600 例、綾瀬川の河川敷の湿地 2 箇所計約 90 例が確認された。綾瀬川堤防上の道路際で約 20 例、綾瀬川の河川敷の草地で約 300 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 1,010 例	
予測結果	対象事業実施区域周辺で確認されたワレモコウ属の一種は約 1,010 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。 本種の主な生育環境は、湿地、水田周辺の土手、河川堤防の草地等であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。 工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。 供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。 したがって、予測地域における本種の生育環境の変更による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。				

確認位置

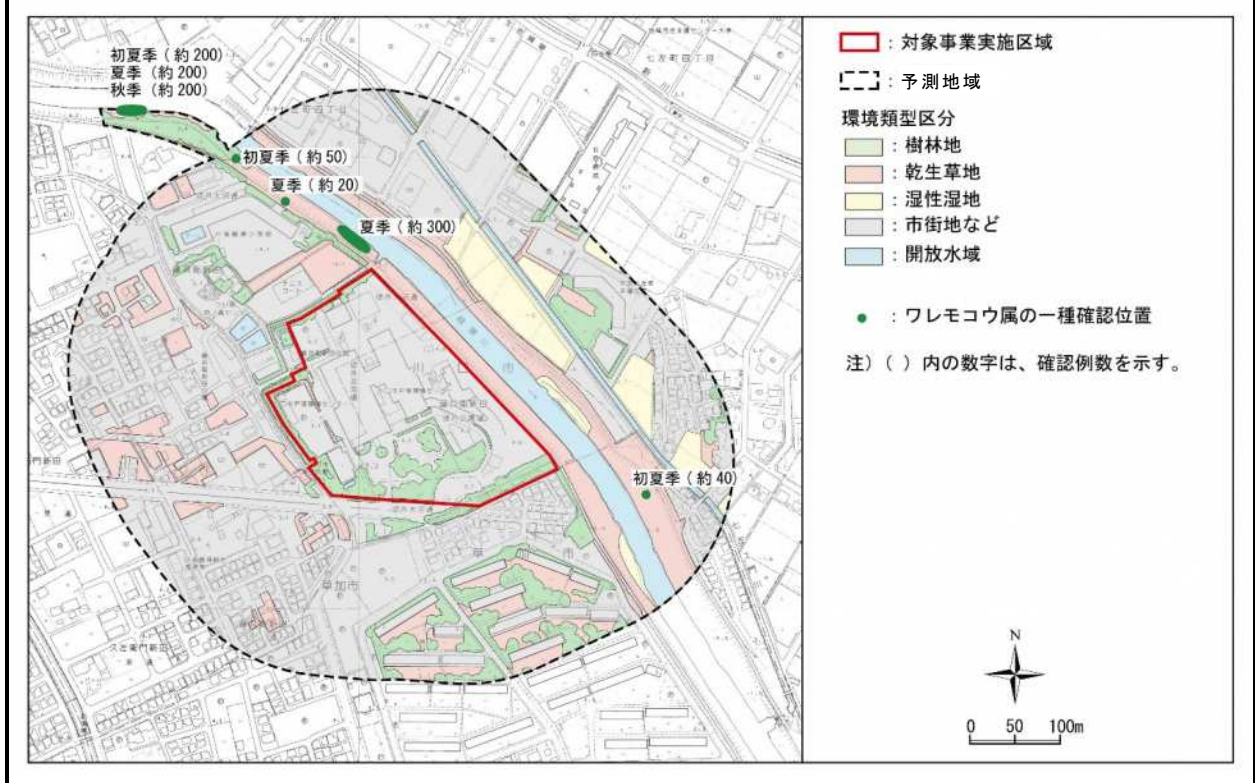


表 9.9-14(11) 保全すべき種の予測結果 (ゴキヅル)

項目	内容				
主な生育環境	河川敷、池沼の周辺の水辺に見られる。				
	予測地域 (ha)	7.5	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地 4 箇所計 51 例、対象事業実施区域南東側の綾瀬川の河川敷の湿地 4 箇所計約 66 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 117 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたゴキヅルは約 117 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、河川敷、池沼の周辺の水辺であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

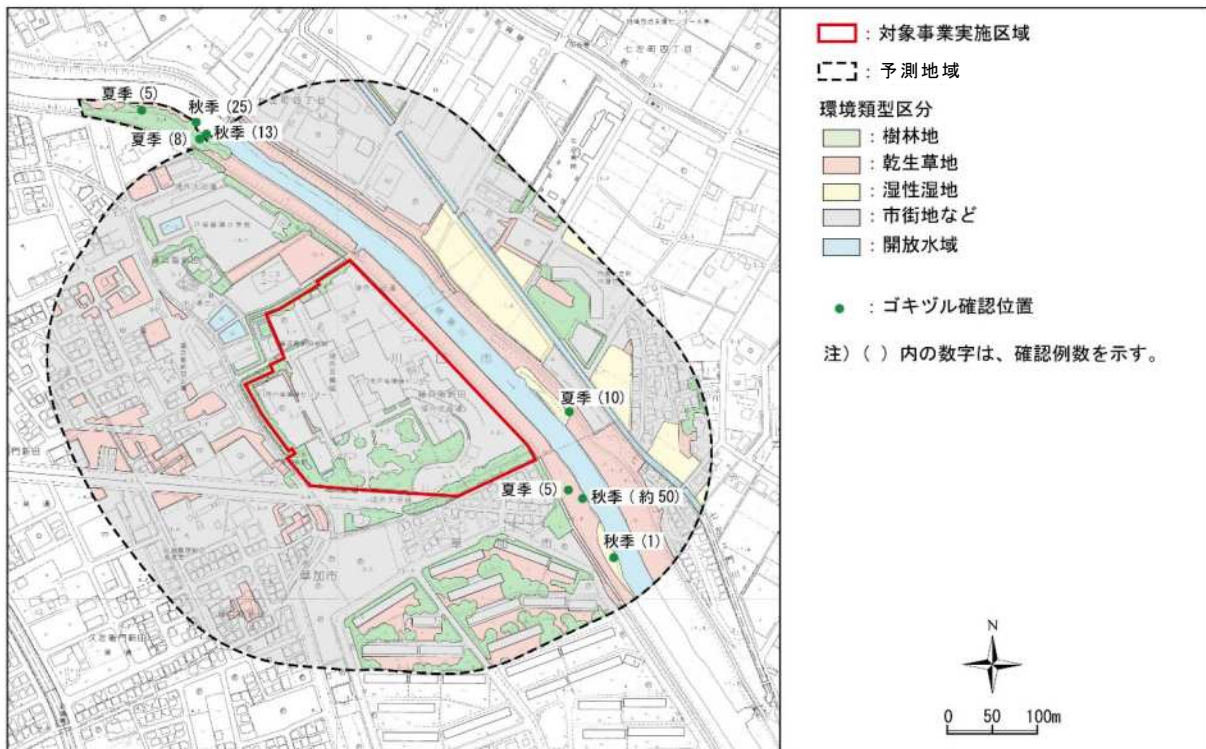


表 9.9-14(12) 保全すべき種の予測結果（ウスゲチョウジタデ）

項目	内容				
主な生育環境	低地の日当たりのよい水田や湿地。				
	予測地域 (ha)	1.7	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外のクワイ畑や水田の畔の3箇所で計約90例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	約90例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたウスゲチョウジタデは約90例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、低地の日当たりのよい水田や湿地であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

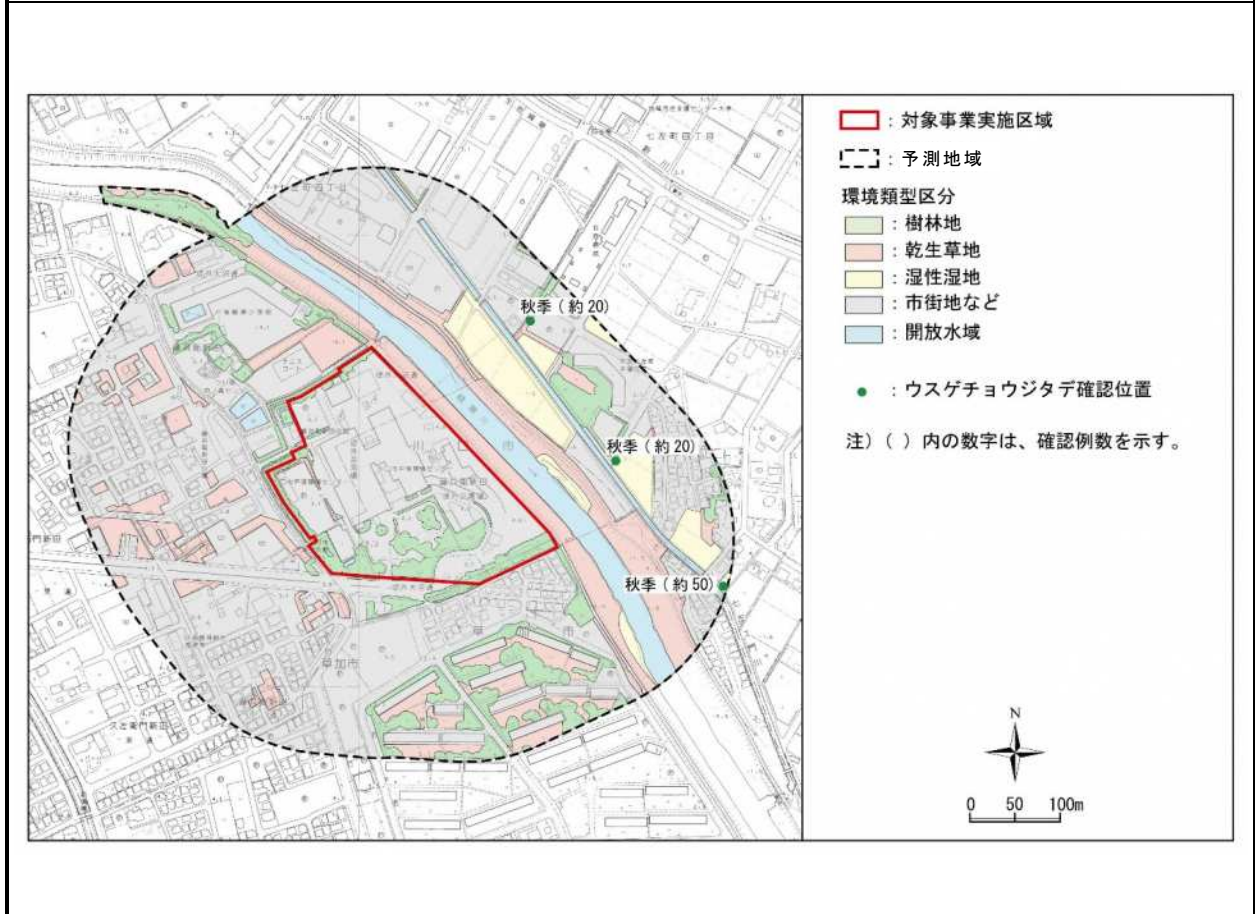
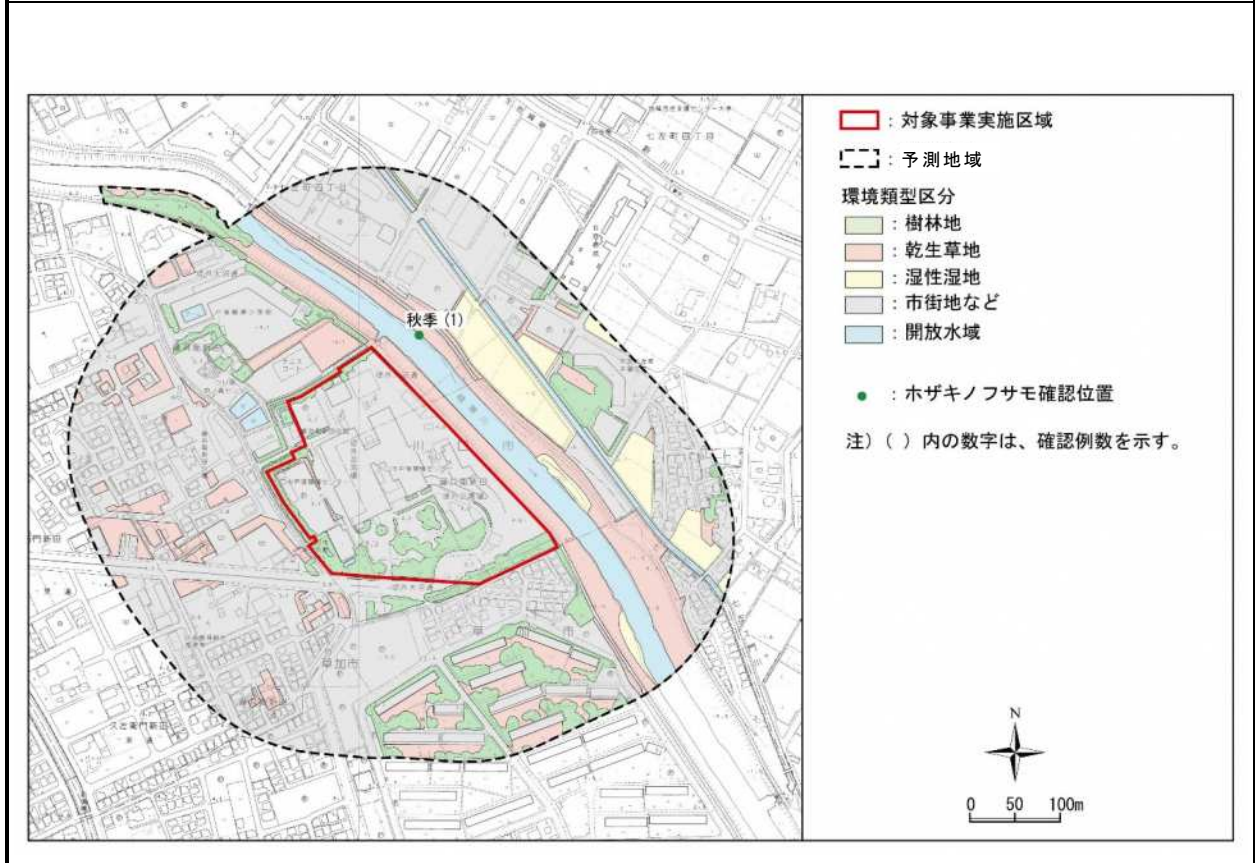


表 9.9-14(13) 保全すべき種の予測結果 (ホザキノフサモ)

項目	内容					
主な生育環境	湖沼、ため池、河川に生育する。					
	予測地域 (ha)	2.3	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川で1例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたホザキノフサモは1例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、湖沼、ため池、河川である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置



注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないため、改変区域内の生育環境から除外した。

表 9.9-14(14) 保全すべき種の予測結果（ヌマトラノオ）

項目	内容				
主な生育環境	河川敷や休耕田等の湿性の草地に生育する。				
	予測地域 (ha)	1.7	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の調査範囲南東側の綾瀬川の河川敷で 42 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	42 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたヌマトラノオは 42 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、河川敷や休耕田等の湿性の草地であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

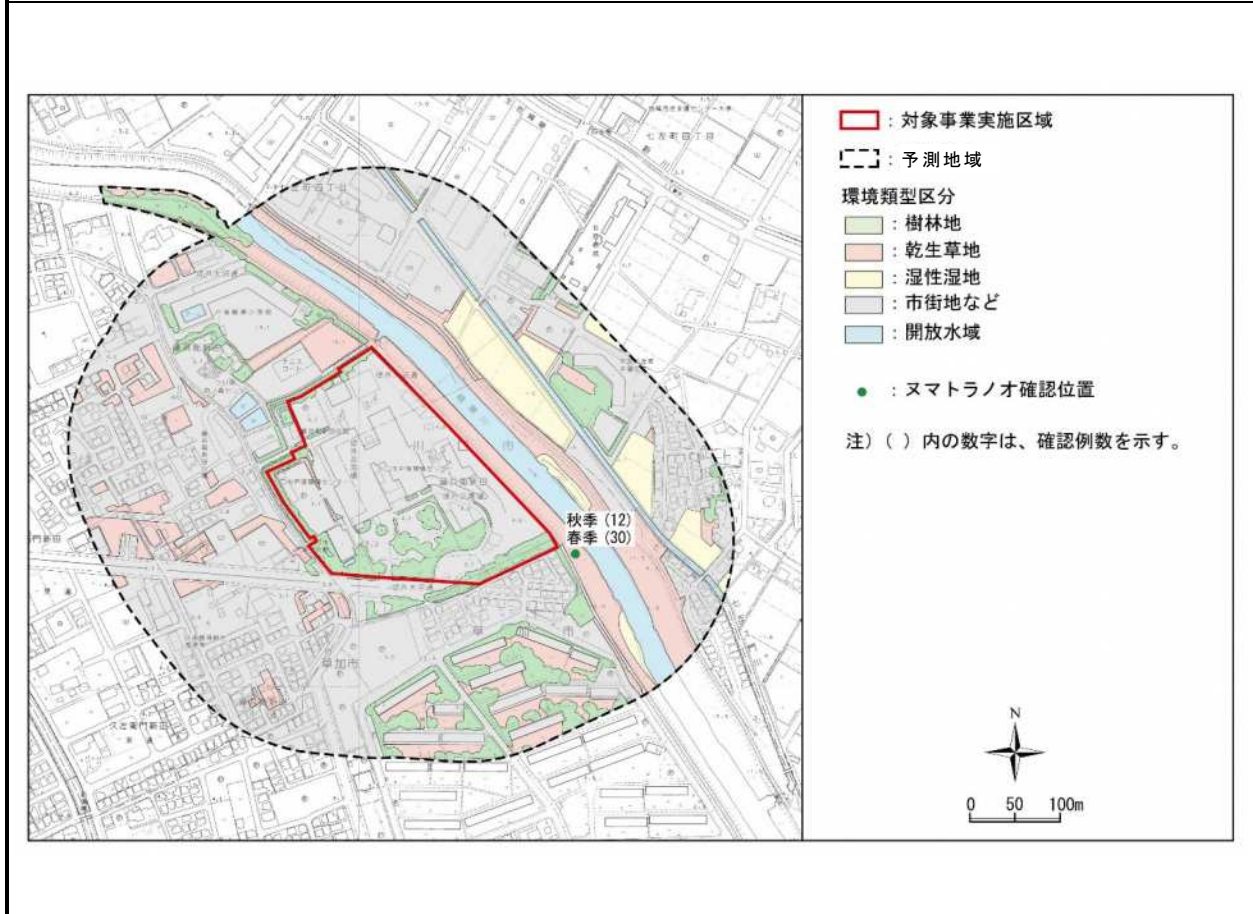
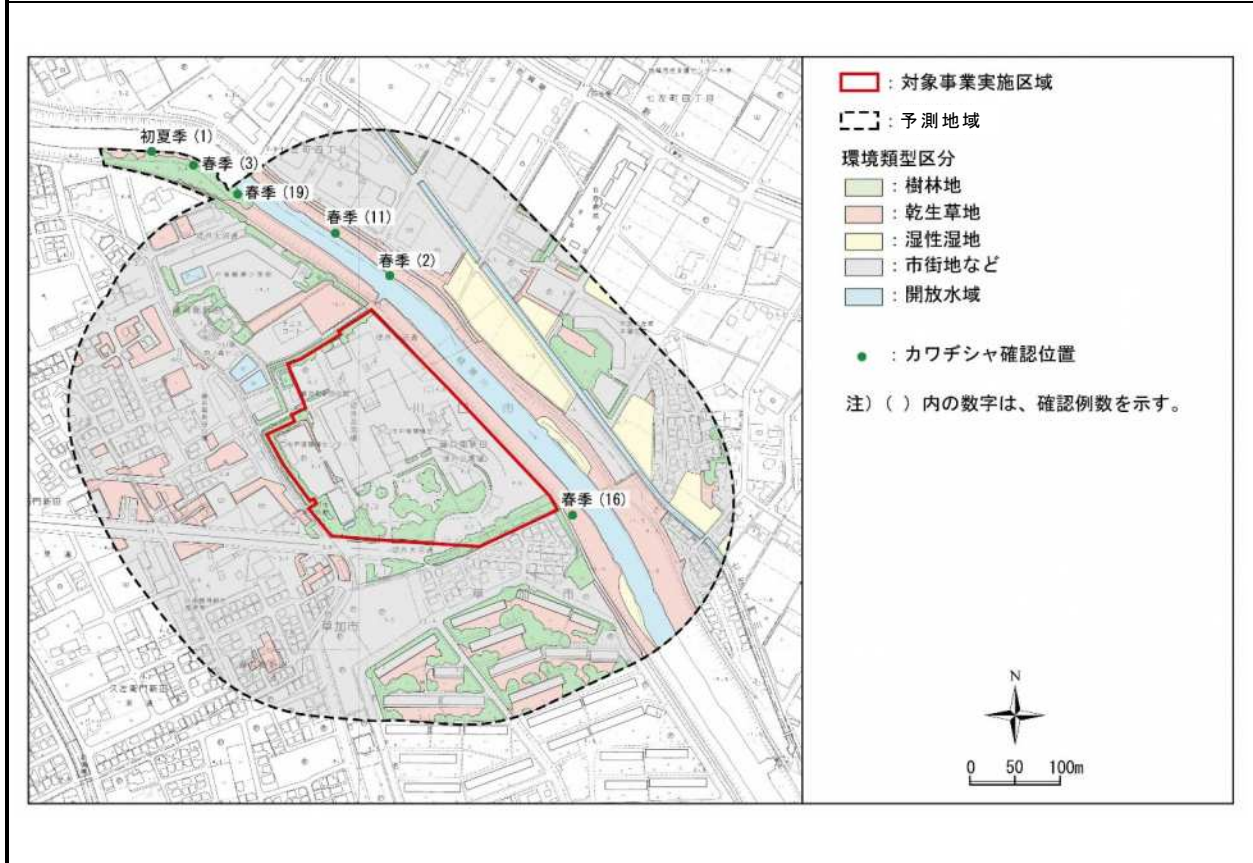


表 9.9-14(15) 保全すべき種の予測結果 (カワヂシャ)

項目	内容					
主な生育環境	日当たりのよい河岸、水路、休耕田。					
	予測地域 (ha)	4.0	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬の森の水際 2 箇所、対象事業実施区域外の綾瀬川の水際 4 箇所、計 6 箇所が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	52 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたカワヂシャは 52 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、日当たりのよい河岸、水路、休耕田である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、事業実施区域内に本種の生育環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

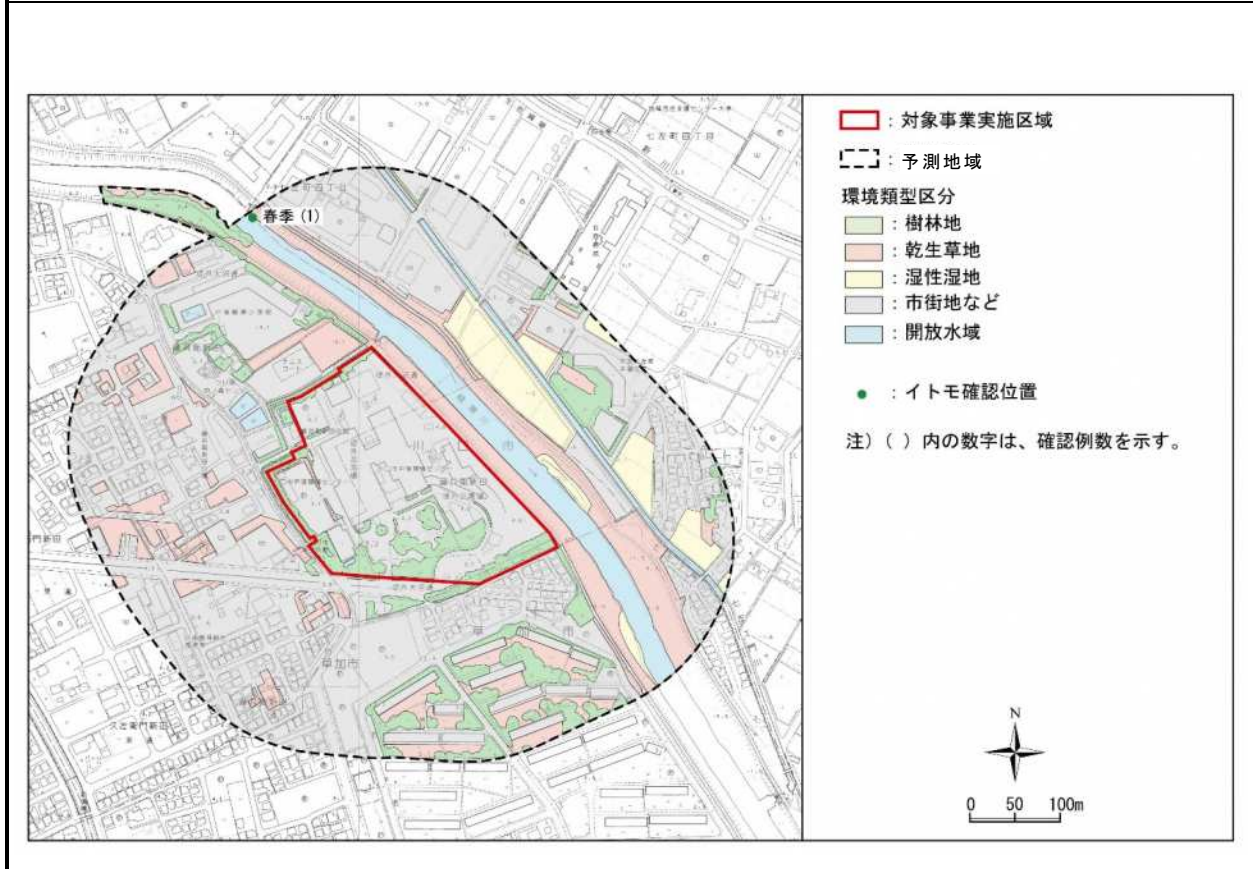


注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないため、改変区域内の生育環境から除外した。

表 9.9-14(16) 保全すべき種の予測結果 (イトモ)

項目	内容					
主な生育環境	低地帯の澄んだ溜池や沼。					
	予測地域 (ha)	2.3	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川で1例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたイトモは1例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、低地帯の澄んだ溜池や沼である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

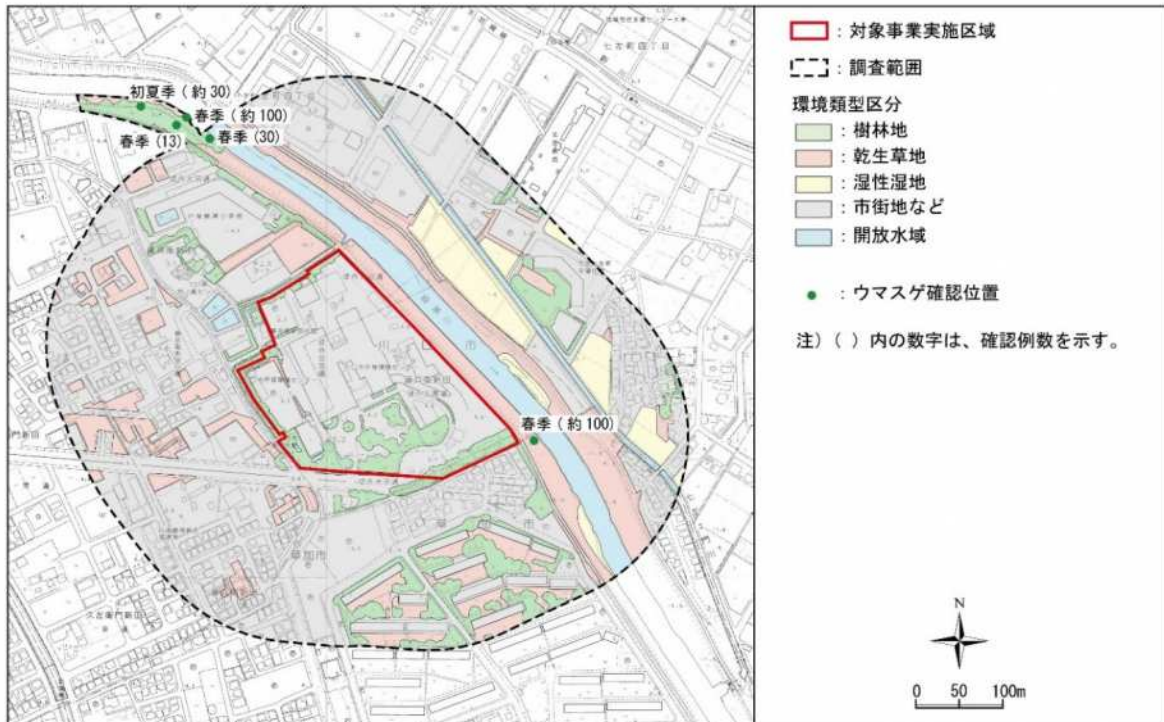
確認位置



注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないため、改変区域内の生育環境から除外した。

表 9.9-14(17) 保全すべき種の予測結果 (ウマスゲ)

項目	内容				
主な生育環境	低地帯の河畦の低沼地。				
	予測地域 (ha)	1.7	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿った林縁で約 30 例、綾瀬川の河川敷の湿地で約 100 例、綾瀬川の水際で 30 例、綾瀬の森の綾瀬川の水際 2 箇所計約 113 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	約 273 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたウマスゲは約 273 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。本種は低地帯の河畦の低沼地を生育環境としており、生育環境は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、低地帯の川畦の低沼地であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の変更による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				
確認位置					



ウ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

(ア) 緑被率

事業の実施に伴う緑被率の変化の状況は、表 9.9-15 に示すとおりである。

予測地域では、事業の実施により、対象事業実施区域内の植栽 0.9ha、竹林 0.1ha が改変されるものの、緑地等の整備により緑被率は現況の 31.1%に対して、施設の存在時には 31.3%となる。

したがって、施設の存在時における緑被率は、現況から大きな変化はなく、現況と同様の状況が維持されると予測される。

表 9.9-15 事業の実施に伴う緑被率の変化（予測地域）

調査項目	番号	群落名	予測地域内の面積 (ha)			
			現況	造成に伴う 改変面積	緑化面積 ^{注)}	施設の 存在時
緑の量 (緑被率)	A	チガヤーチゴザサ群落	0.4	0	0	0.4
	B	ヨシ群落	0.2	0	0	0.2
	C	アレチウリーオオオナモミ群落	0.4	0	0	0.4
	D	クワモドキーセイバンモロコシ群落	1.5	0	0	1.5
	E	植栽	3.8	0.9	1.0	3.9
	F	竹林	0.1	0.1	0	0.0
	G	管理草地	1.1	0	0	1.1
	H	畑地雑草群落	0.3	0	0	0.3
	I	水田雑草群落	1.5	0	0	1.5
	J	荒地雑草群落	1.6	0	0	1.6
	K	路傍雑草群落	0.4	0	0	0.4
		緑地面積	11.3	1.0	1.0	11.4
		緑被率 (%)	31.1			31.3
	その他の土地利用を含む面積			25.0	2.8	2.8
合 計			36.3	3.8	3.8	36.3

注) 緑化面積は、対象事業実施区域内の造成範囲内の面積を示す。






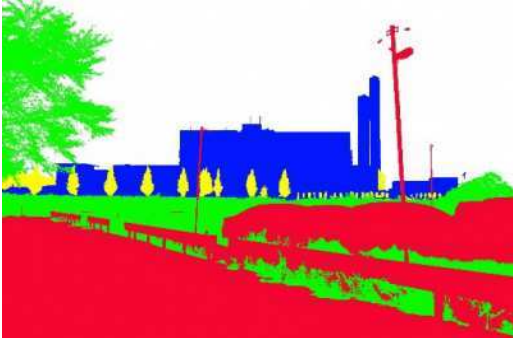

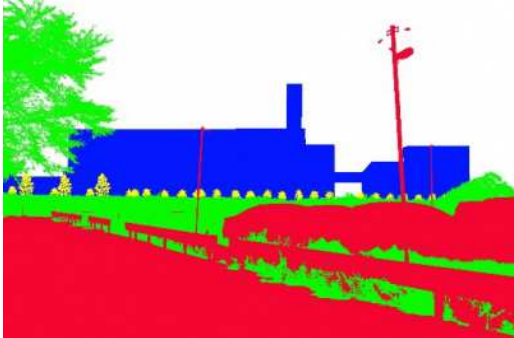
(イ) 緑視率

緑視率の予測結果は、表 9.9-16 に示すとおりである。

No.1 地点からの眺望景観の緑視率は、現況で 41.0%であったものが、施設の存在時には 22.0%となった。No.2 地点からの眺望景観の緑視率は、現況で 17.3%であったものが、施設の存在時には 16.5%となった。

No.1 地点では、施設の存在時の緑視率は、現況の約半分程度まで減少すると予測される。No.2 地点では、施設の存在時の緑視率は、現況と大きな変化はなく、現況と同様の状況が維持されると予測される。

表 9.9-16 緑視率の予測結果

地点	緑の視認状況・緑視率	
No.1	<p>(現況)</p>   <p>【緑視率：41.0%】</p>	<p>(施設の存在時)</p>   <p>【緑視率：22.0%】</p>
No.2	<p>(現況)</p>   <p>【緑視率：17.3%】</p>	<p>(施設の存在時)</p>   <p>【緑視率：16.5%】</p>

注) 緑視率の色分けの凡例
 黄色：対象事業実施区域内の緑 緑色：対象事業実施区域外の緑
 青色：対象事業実施区域内の構造物 赤色：対象事業実施区域外の構造物 白色：その他

9.9.3 評価

(1) 工事の実施及び施設の存在に伴う植物への影響

1) 評価方法

ア 影響の回避・低減の観点

工事の実施及び施設の存在に伴う植物への影響が、事業者により実行可能な範囲内
でできる限り回避され、または低減されているかどうかについて明らかにした。

イ 基準・目標等との整合性の観点

基準・目標等との整合性の検討については、国、埼玉県または関係市により環境保全
に係る基準値や目標等が示されている場合には、それらを環境の保全上の目標として
設定し、基準値や目標等がない場合には、その他の環境の保全上の目標を設定して、予
測結果との間に整合が図られているかどうかを明らかにした。

植物に係る環境保全目標は、「埼玉県環境基本計画（第4次）」（平成29年、埼玉県）、
「第4次埼玉県国土利用計画」（平成22年、埼玉県）及び「埼玉県5か年計画 希望・
活躍・うるおいの埼玉」（平成29年、埼玉県）等の計画等において、今後の施策や目標
等が表9.9-17のとおり示されている。

以上のことから、植物に係る環境保全目標は、「保全すべき植物種の生育環境を保全
すること」とした。

表 9.9-17 整合を図るべき基準等

項目	整合を図るべき基準等
「埼玉県環境基本計画（第4次）」（平成29年、埼玉県）	<p>【長期的な目標】 恵み豊かなみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の保全と再生 ・緑の保全と再生 ・森林の整備と保全 ・生物多様性の保全
「第4次埼玉県国土利用計画」（平成22年、埼玉県）	<p>【県土利用の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県土の有効利用 ・人と自然が共生し、美しくゆとりある県土利用 ・安心・安全な県土利用 ・多様な主体の参画、計画的な県土利用
「埼玉県5か年計画 希望・活躍・うるおいの埼玉」（平成29年、埼玉県）	<p>【南部地域の施策展開】 豊かな自然と共生する社会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見沼田圃の保全・活用・創造 ・市などと連携した水辺空間の利活用の促進
「第2次埼玉県広域緑地計画」（平成29年、埼玉県）	<p>【緑の将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『緑とともに暮らす、ゆとり・安らぎ「埼玉」』 <p>【地形別の緑のあり方】 低地では、広大な水田を代表とする農地を基調として、河川・水路、屋敷林や社寺林等が一体となった田園景観のような緑を目指します。 市街地では、残された貴重な樹林地等を保全・活用しながら、新たな緑の創出により、緑豊かで良好な生活環境を有する市街地が形成されるようにします。</p>
「まちづくり埼玉プラン」（平成30年、埼玉県）	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と自然・田園との共生
「埼玉県生物多様性保全戦略」（平成30年、埼玉県）	<p>基本戦略1. 多面的機能を発揮する森林の豊かな環境を守り、育てる 基本戦略2. 里地里山の多様な生態系ネットワークを形成する 基本戦略3. 都市環境における緑を創出し、人と自然が共生する社会づくり</p>
「埼玉県土地利用基本計画計画書」（平成25年、埼玉県）	<ul style="list-style-type: none"> ・川口市が含まれる「県南地域」では、新たな工業用地などの需要に対しては、農業的土地利用や自然環境との調和を図るとともに、乱開発の抑止に努めます。
「第5次川口市総合計画」（平成28年、川口市）	<p>【豊かな水と緑に親しめる空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境の整備 ・緑地環境の整備 <p>【環境の保全と創造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の保全 ・地球環境の保全
「川口市都市計画基本方針」（平成29年、川口市）	<p>【戸塚地域のまちづくり方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しみのある水辺の環境づくり
「第3次川口市環境基本計画」（平成30年、川口市）	<p>【自然共生社会の実現～豊かな自然とともに暮らせるまち～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全 ・みどり・水辺の保全

ウ 環境の保全に関する配慮方針

本事業で実施する環境の保全に関する配慮方針に関する検討内容は表 9.9-18 に示すとおりである。

表 9.9-18 植物に関する環境の保全に関する配慮方針の検討内容

影響要因	環境保全措置の区分	影響の概要	環境の保全に関する配慮方針の概要	環境の保全に関する配慮方針による影響の低減の程度
造成等の工事	回避	生育環境の消失 生育環境の質的变化	対象事業実施区域の変更、造成計画の変更等により、保全すべき種の生育環境への影響を回避する。	現地調査結果より、対象事業実施区域内に保全すべき植物種が確認されず、対象事業実施区域周辺において確認された保全すべき植物種の生育環境に対しても、事業の実施に伴う生育環境の消失は認められなかったことから、回避及び低減措置としての対象事業実施区域の再選定や最小化は実施する必要がないものとした。
	回避・低減		構造等の変更による地形改変の最小化により影響を低減する。	
	低減	水質の変化	工事中に発生する濁水は、仮設沈砂池等で土粒子を沈降させ、上澄みを排水し、影響を低減する。	
施設の存在	低減	光環境の変化	対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設け、影響を低減する。	高層建築物の建設予定はなく、高所からの照明による影響は想定されない。また、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、植物の生育環境への影響は極めて小さいと考えられる。
		緑視率の低下	対象事業実施区域内の緑地整備により、人工的雰囲気緩和し、区域内と周辺の緑地環境の調和を考慮する。	対象事業実施区域内の周囲に緑地環境を設けることで、植栽木の生長により施設等が隠蔽されることから、緑視率への影響を低減できると考えられる。
	代償	生育環境の消失	「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成 18 年埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹することで、生育環境を創出する。	在来植物を中心とした植栽により、新たな生育基盤が整備される。それらの生長と共に、適応する草本類が侵入することが考えられることから、植物に対して代償機能を有するものと考えられる。

2) 評価結果

ア 影響の回避・低減の観点

植物に関する環境の保全に関する配慮方針の検討内容より、実施することとした環境の保全に関する配慮方針は、表 9.9-19 に示すとおりである。

保全すべき植物種の生育地及び生育環境の消失は回避されることなどから、回避及び低減措置としての対象事業実施区域の再選定や最小化は実施する必要がないものと考えられる。

低減措置として、工事中では濁水の発生の抑制、施設の存在時では緩衝緑地の配置による光環境への影響の低減措置を実施する。

また、事業実施区域内の樹林地（植栽）は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成 18 年、埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹する計画であることから、新たな植物の生育基盤として機能することが期待できる。

緑の量については、緑視率が低下する地点があるものの、対象事業実施区域内の周囲に緑地環境を設けることで、植栽木の生長に伴い施設等が隠蔽され、人工的雰囲気が緩和されることから、緑視率への影響は低減できると考えられる。

以上により、工事の実施及び施設の存在に伴う植物への影響は、実行可能な範囲内で行える限り低減されると評価した。

表 9.9-19 植物に関する環境の保全に関する配慮方針

影響要因	環境保全措置等の区分	影響の概要	環境の保全に関する配慮方針	環境の保全に関する配慮方針の概要
造成等の工事	低減	水質の変化	濁水の発生抑制	工事中に発生する濁水は、仮設沈砂槽等で土粒子を沈降させ、上澄みを排水し、影響を低減する。
施設の存在	低減	光環境の変化	緩衝緑地の配置	対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設け、影響を低減する。
		緑視率の低下	緑地整備による人工的雰囲気の緩和	対象事業実施区域内の緑地整備により、人工的雰囲気を緩和し、区域内と周辺の緑地環境の調和を考慮する。
	代償	生育環境の消失	生育環境の創出	「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成 18 年、埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹することで、生育環境を創出する。

イ 基準・目標等との整合の観点

工事の実施及び施設の存在に伴い、保全すべき植物種の生育地及び生育環境は消失せず、質的变化に対しても前掲表 9.9-19 に示す環境の保全に関する配慮方針を講ずることから、環境保全目標との整合が図られていると評価した。